

【市民意識調査】

①回答者の属性

回答者の年齢層は、60歳以上が半数以上を占めているものの、富良野市の年齢階級別人口の傾向とは概ね整合しており、抽出過程における大きな偏りは発生しなかったと考えられる(図3-9)。市街地と市街地以外で分けても、18～29歳の割合が市街地で高いことを除けば、概ね似た傾向の年齢分布と言える。性別についても、女性がやや多いという結果は、人口統計の傾向と整合している(図3-10)。居住エリア別で見ると、市街地で回収率が38.7%であったのに対し、市街地以外の4エリアでは回収率が22.9～27.9%と相対的に低い結果であった(図3-11、表3-1)。

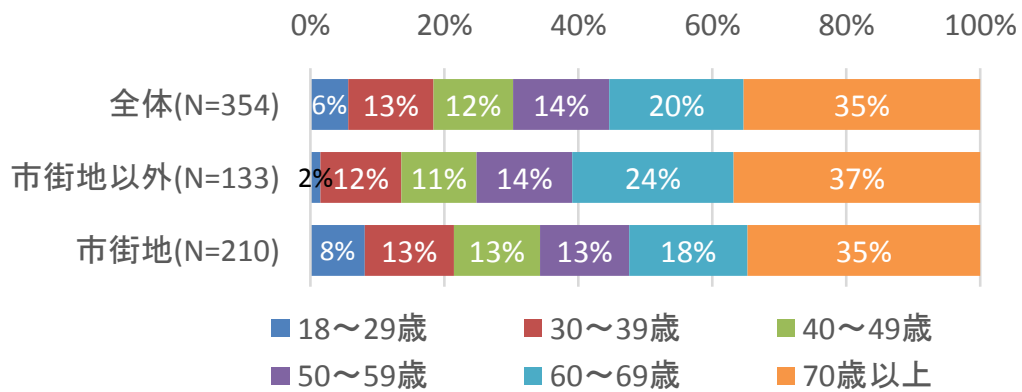


図3-9. 回答者の年齢層

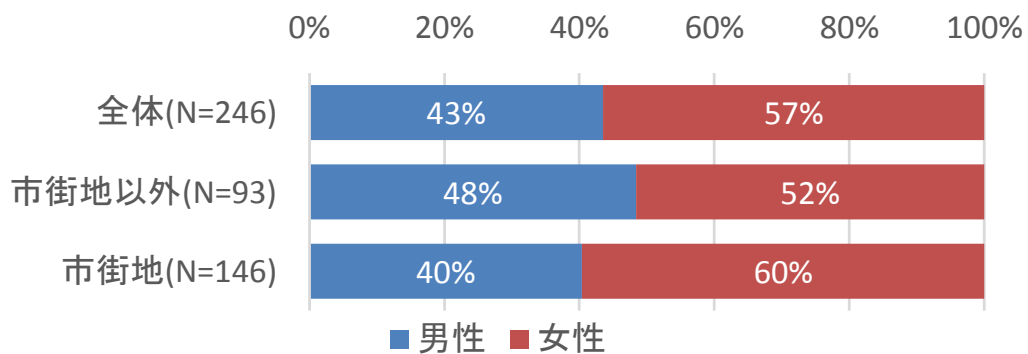


図3-10. 回答者の性別

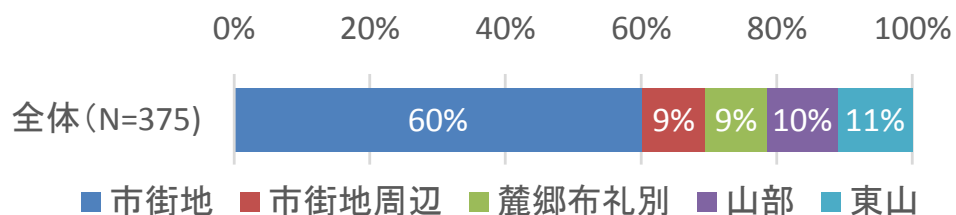


図3-11. 回答者の居住エリア

表 3-1. エリアごとの配布数と回収数

		配布数	回収数	回収率(%)
1	市街地	550	213	38.7
2	市街地周辺	140	33	23.6
3	麓郷布礼別	140	32	22.9
4	山部	140	37	26.4
5	東山	140	39	27.9
	地区無記入	-	21	-

②回答者の職業等

回答者の職業は、「無職（27%）」が最も多く、次いで「農業・林業(18%)」、「商業・サービス業(14%)」が続く（図 3-12）。これを市街地と市街地以外で分けると、市街地以外では「農業・林業」が 41%を占めるのに対し、市街地では、「農業・林業」は 3%と少なく、「無職」が 30%を占めていた。

回答者の勤務地は、86%が「富良野市」であったが、「上富良野町（2%）」、「中富良野町(1%)」、「南富良野町(2%)」も確認された（図 3-13）。市街地と市街地以外で分けると、市街地の方が、市外に通勤している人の割合が高い傾向が見られた。雇用形態は、「正社員雇用者（37%）」が最も多く、次いで「非正規雇用者(28%)」であった（図 3-14）。しかし、市街地と市街地以外で分けると、市街地では「正社員雇用者（53%）」が最も多かったのに対し、市街地以外では、「事業継承者(30%)」（多くは農家と考えられる）が最も多く、次いで「非正規雇用者(26%)」であった。

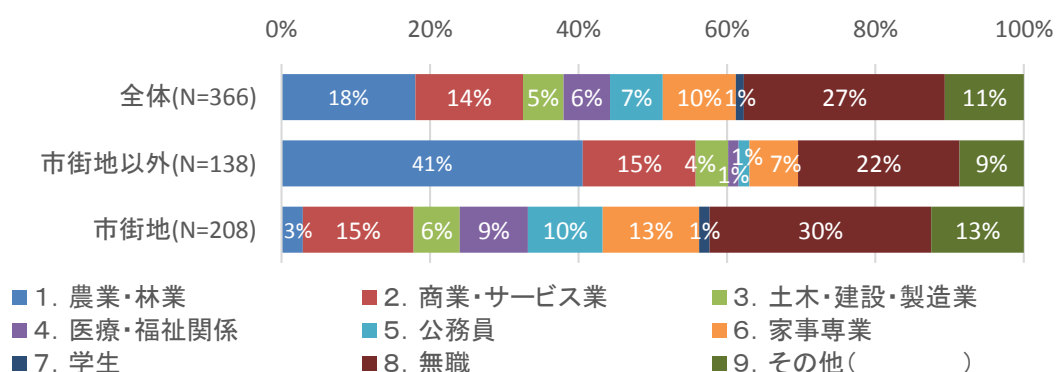


図 3-12. 回答者の職業

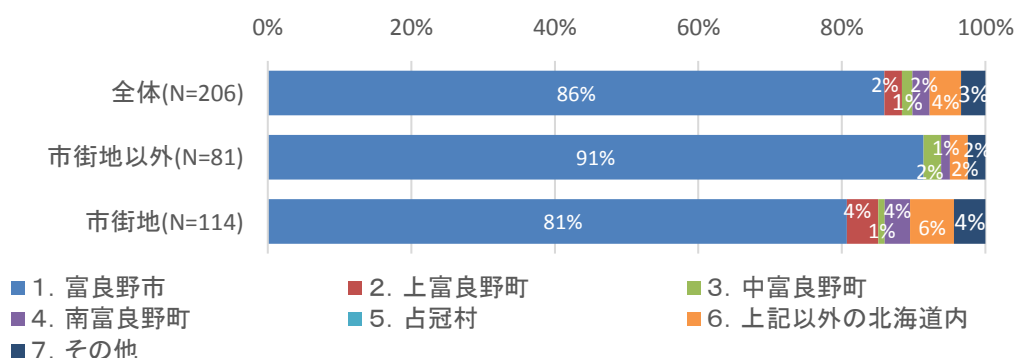


図 3-13. 回答者の勤務地

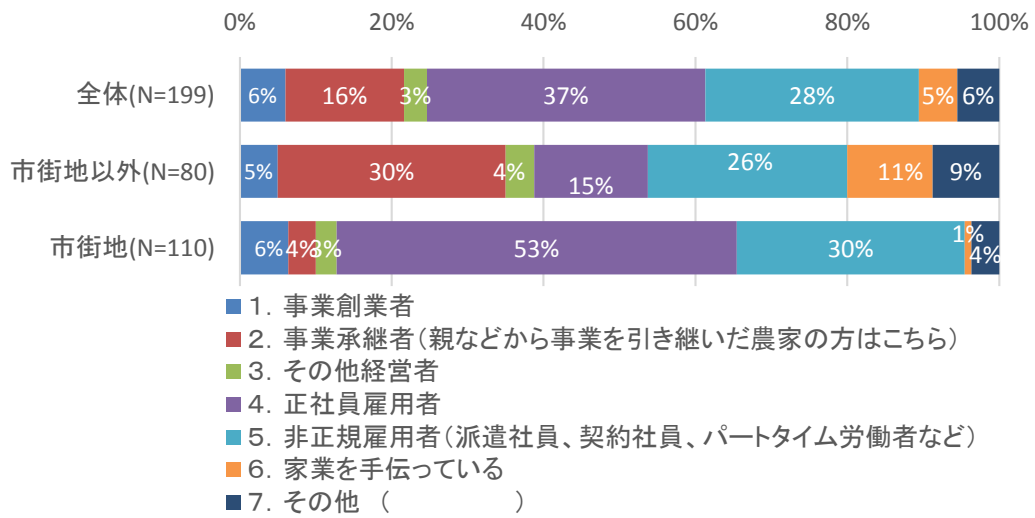


図 3-14. 回答者の雇用形態

③居住経緯に関する回答

居住の経緯は「1. 生まれてからずっと富良野市内に住み続けている(34%)」と「4. 市街(道内)から転入してきた(34%)」がもっとも多く、次いで「2. 進学・就職等で一度富良野市を離れたが、現在は富良野市に住んでいる(18%)」であった(図 3-15)。もともと富良野市生まれの回答者(1、2および3)と何らかの形で外から転入してきた回答者(3、4、5および6)は、それぞれ 57.9%、42.1%で、同程度であった。市街地と市街地以外で分けると、市街地以外では「1. 生まれてからずっと富良野市内に住み続けている」が 53%を占め、「4. 市外(道内)から転入してきた」は 19%であったのに対し、市街地では「1. 生まれてからずっと富良野市内に住み続けている」は 21%で、「4. 市外(道内)から転入してきた」は 44%であった。

転入の主な理由は、全回答者で見ると「仕事の都合」が 54%、次いで「結婚のため(30%)」、「住宅の都合(7%)」であった(図 3-16)。市街地と市街地以外で分けると、市街地以外では市街地に比べて「仕事の都合(38%)」が少なく、「結婚のため(47%)」が最も多い転入要因となっていた。居住年数は、「20年以上(72%)」が最も多く、「5年未満」は 10%であった(図 3-17)。市街地と市街地以外で分けると、市街地の傾向は全体とほぼ同様であったのに対し、市街地以外では、「20年以上」が 80%を占めていた。

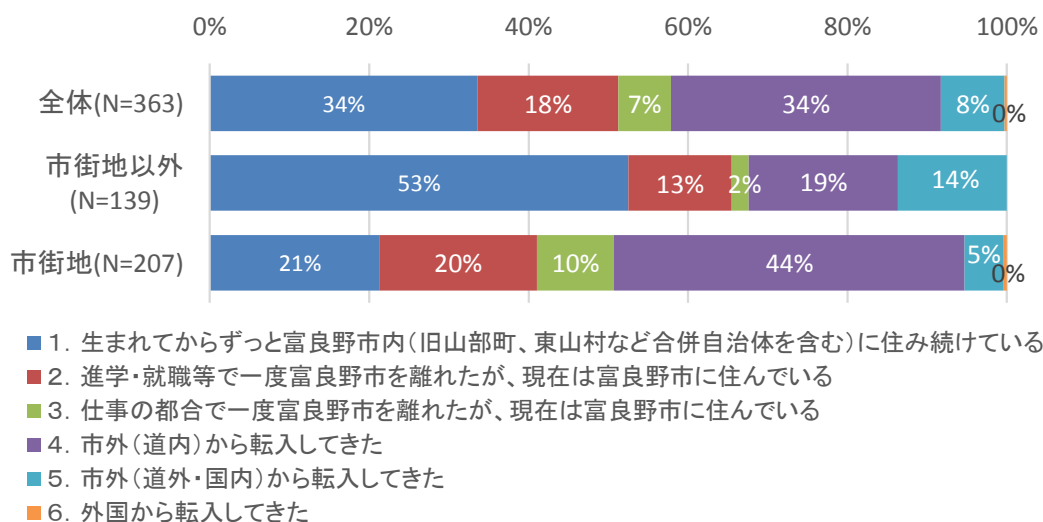


図 3-15. 居住の経緯

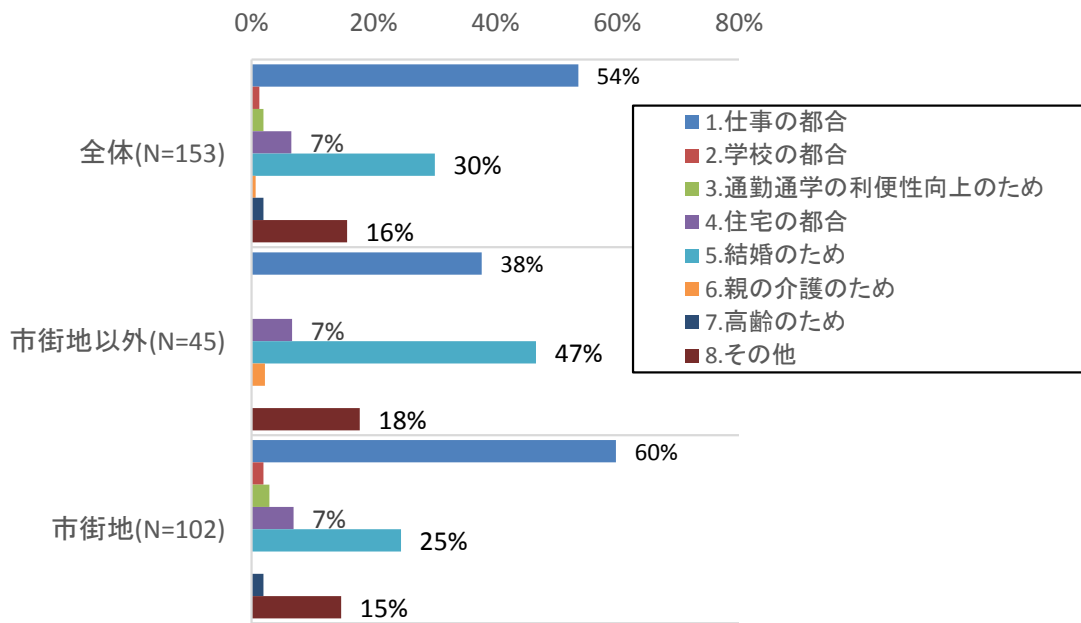


図 3-16. 転入の主な理由

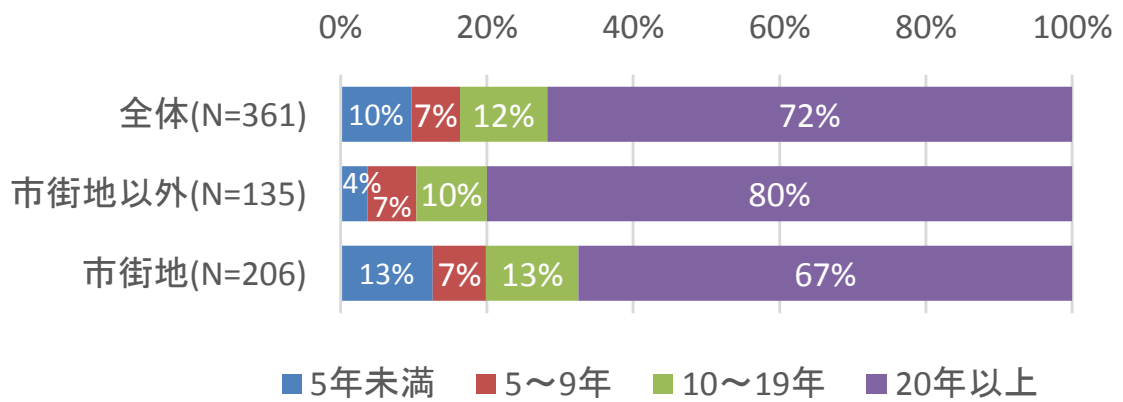


図 3-17. 居住年数

④現状に対する分野別評価

図 3-18～3-20 は、現状に対する評価を「大変満足」「どちらかといえば満足」の合計回答者数が高い順に並べ替えたものである。「ゴミの分別とリサイクル」が 48.7%と突出して高く、次いで、「市からの情報提供 (27.4%)」、「地域環境美化の推進 (24.3%)」が続く (図 3-18)。平成 21 年度調査の結果と比較すると、「ゴミの分別とリサイクル」に約半数が満足しているという結果は変わっていない。「市からの情報提供」は平成 21 年度の 37.3%からやや下がったのに対し、「地域環境美化の推進」は 22.9%からやや上昇した。

市街地と市街地以外で分けると、まず市街地以外では順位は全体的場合と同じであるが、「ゴミの分別とリサイクル」が 41%とやや低く、「市からの情報提供」は 29%とやや高め、「地域環境美化の推進」が 15%とかなり低めであった (図 3-19)。一方、市街地では「ゴミの分別とリサイクル」が 54%と高く、さらに「地域環境美化の推進」が 31%で 2 位となり、「市からの情報提供」は 27%で 3 位となっていた (図 3-20)。

全体

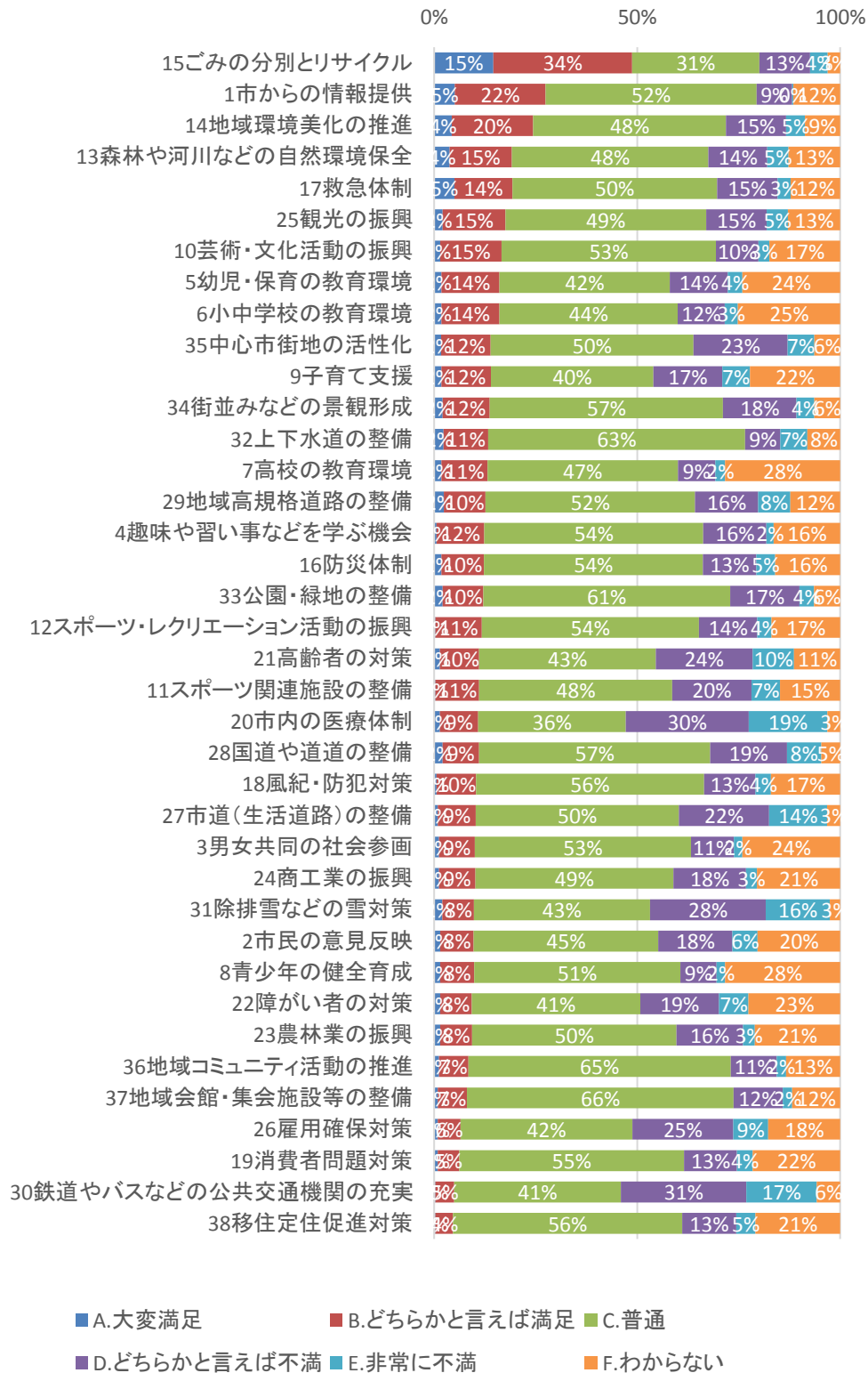


図 3-18. 富良野市の行政に対する評価（全体）

市街地以外

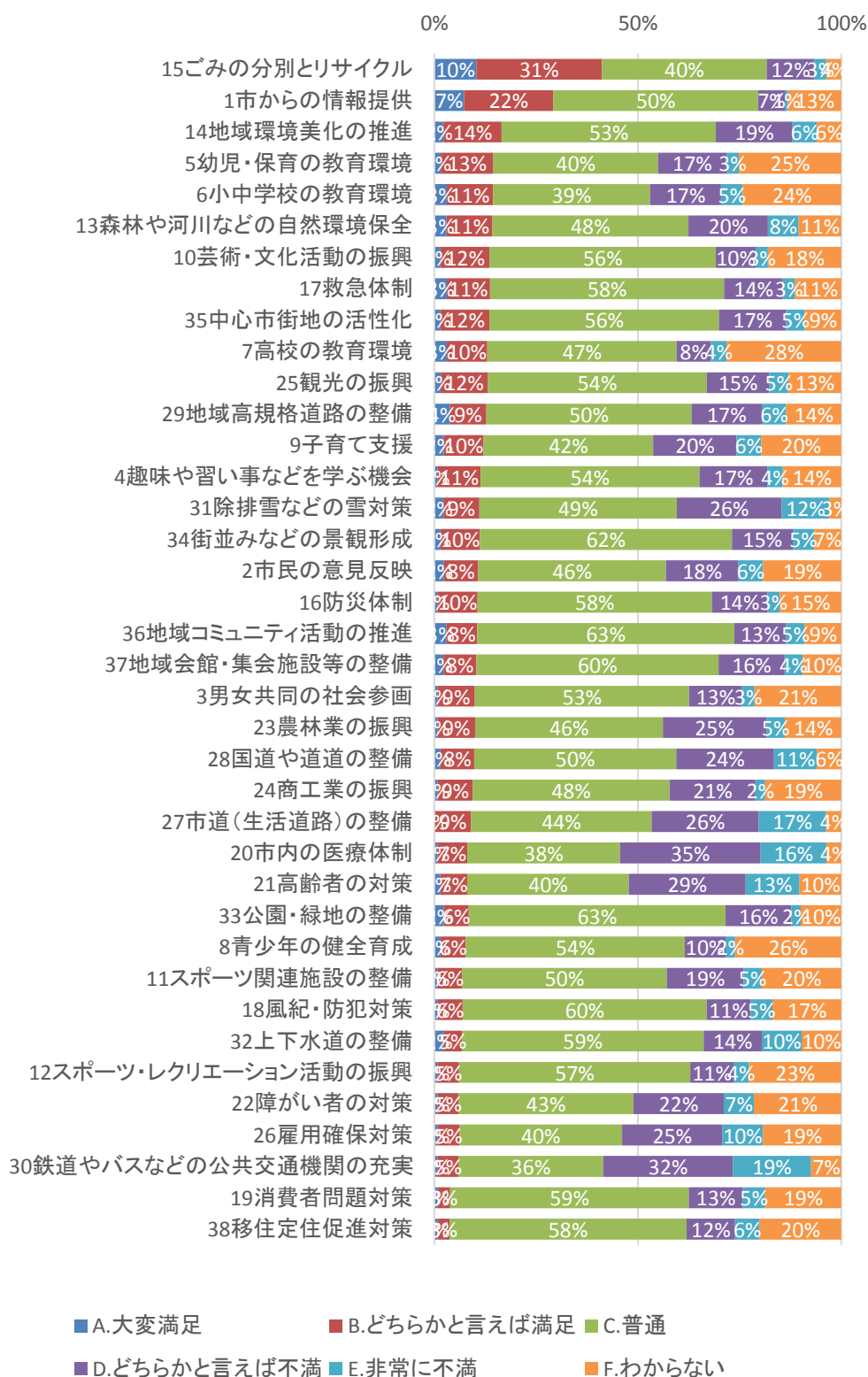


図 3-19. 富良野市の行政に対する評価（市街地以外の回答者）

市街地

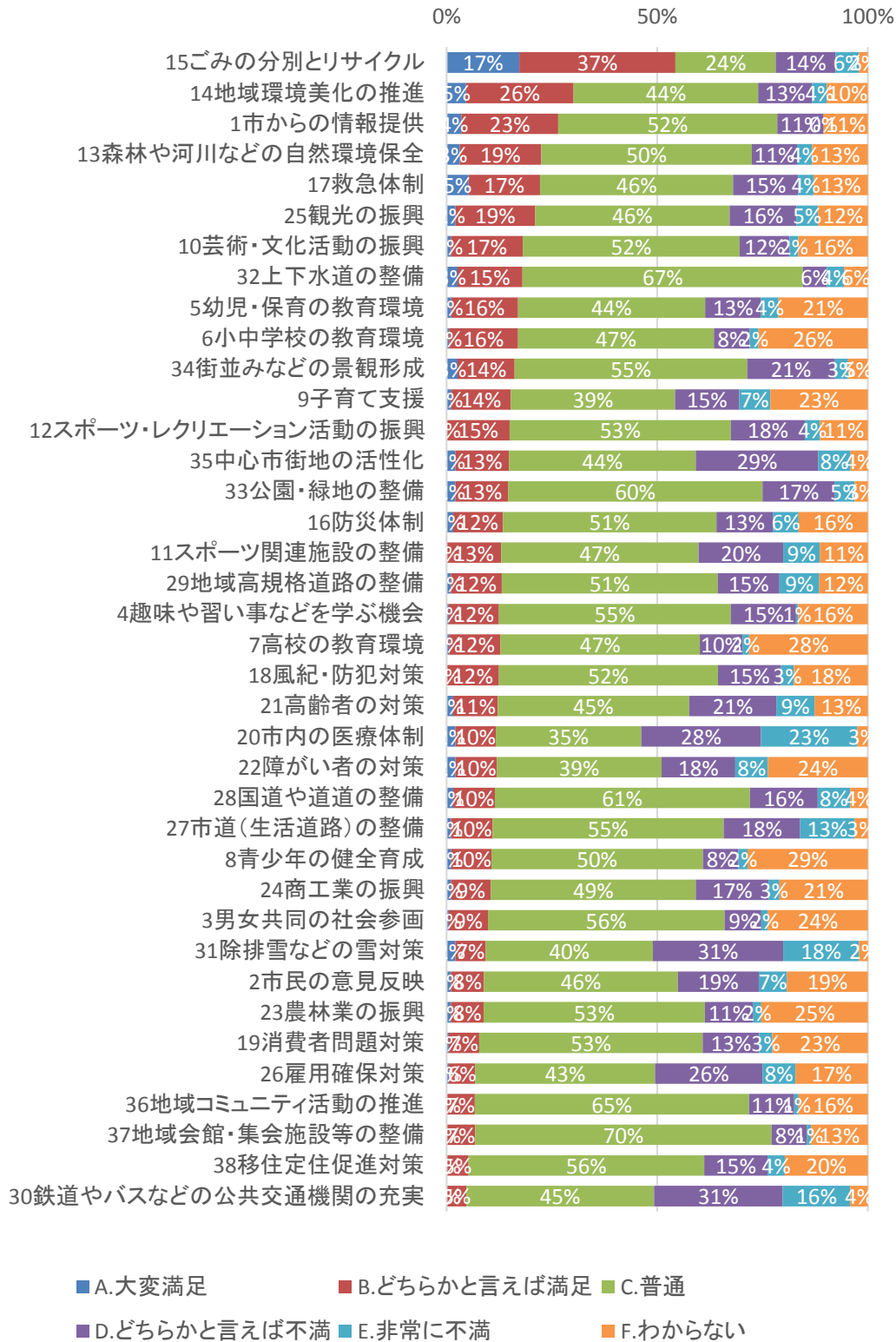


図 3-20. 富良野市の行政に対する評価（市街地居住者）

図 3-21～3-23 は、今後の取り組みに対する希望を「非常に力を入れてほしい」「少しは力を入れてほしい」の合計回答者数が高い順に並べ替えたものである。全体では「市内の医療体制（73.1%）」が最も高く、次いで、「高齢者の対策（65.7%）」、「除排雪などの雪対策（64.3%）」、「鉄道やバスなどの公共交通機関の充実（63.7%）」、「子育て支援（62.0%）」、「雇用確保対策（60.1%）」が続く。平成 21 年度調査の結果と比較すると、「市内の医療体制」は平成 21 年度の 66.2%から上昇しており、医療体制に対する要望が上昇していることがうかがえる。このほか、上位に入った「高齢者の対策」、「除排雪などの雪対策」「鉄道やバスなどの公共交通機関の充実」、「子育て支援」はいずれも平成 21 年度よりも上昇していた。一方、「雇用確保対策」は平成 21 年度の 80.3%から大幅に下降した。

市街地と市街地以外で分けると、まず市街地以外では「高齢者の対策」が 76.3%で 1 位、次いで「市内の医療体制(75.8%)」、「市道（生活道路）の整備（68.2%）」、「鉄道やバスなどの公共交通機関の充実（65.4%）」、「障がい者の対策（62.9%）」、「農林業の振興（63.1%）」、「子育て支援（64.1%）」が続く（図 3-22）。一方、市街地では全体の場合と同様「市内の医療体制（71.4%）」が 1 位、次いで「除排雪などの雪対策（67.8%）」、「鉄道やバスなどの公共交通機関の充実（62.7%）」、「雇用確保対策（62.7%）」、「子育て支援(60.7%)」が続く（図 3-23）。

全体

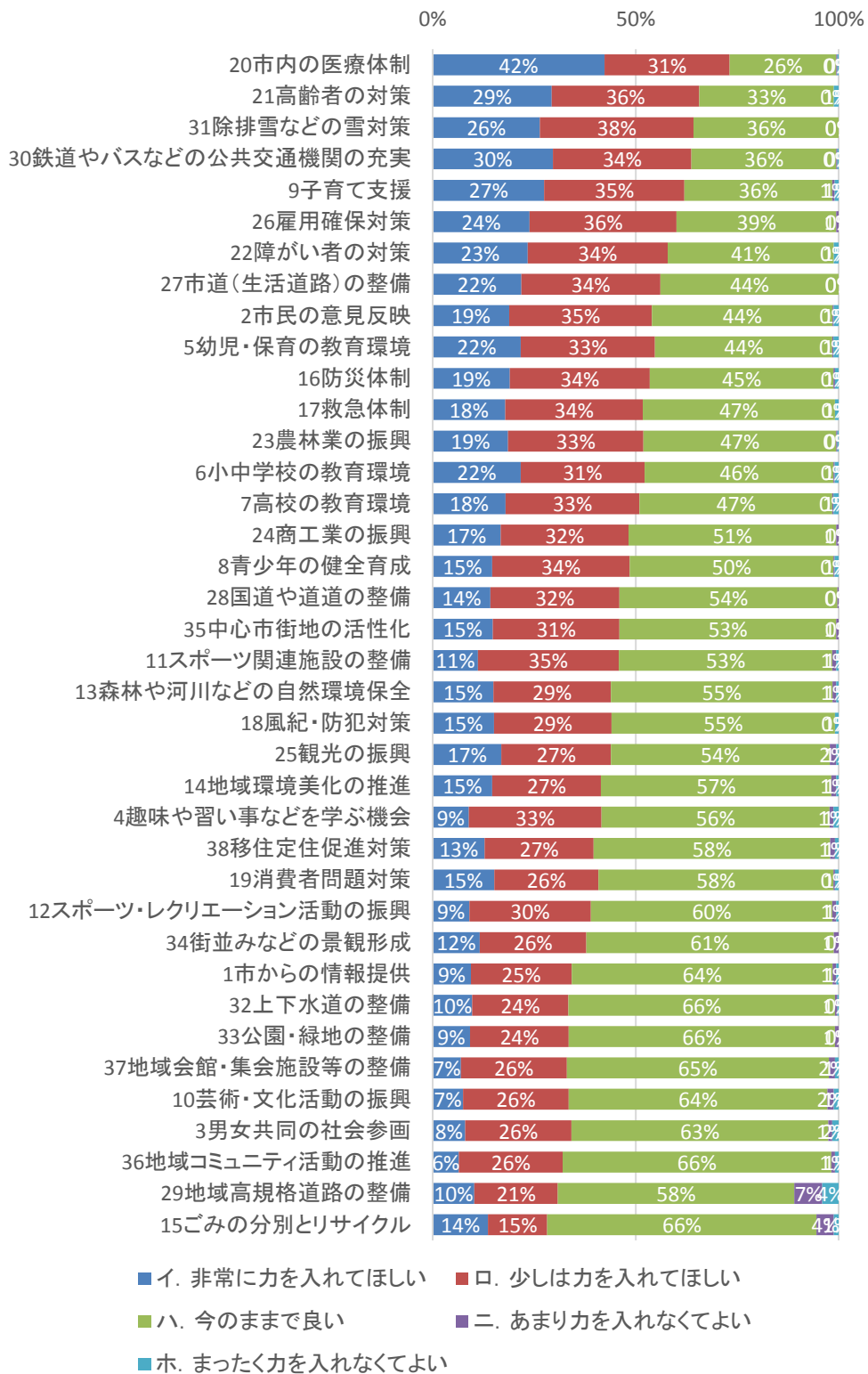


図 3-21. 富良野市の行政に対する期待（全体）

市街地以外

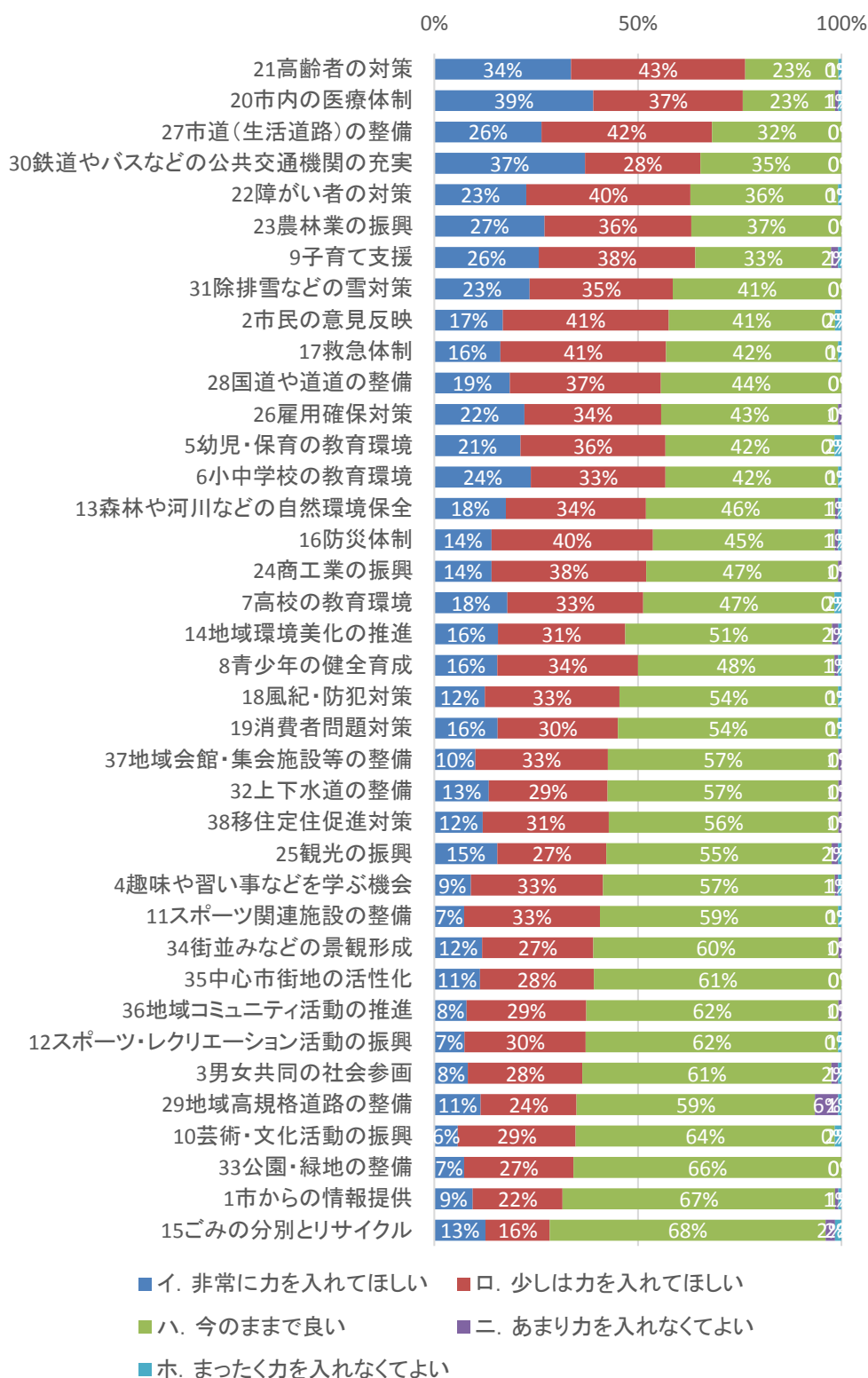


図 3-22. 富良野市の行政に対する期待（市街地以外の居住者）

市街地

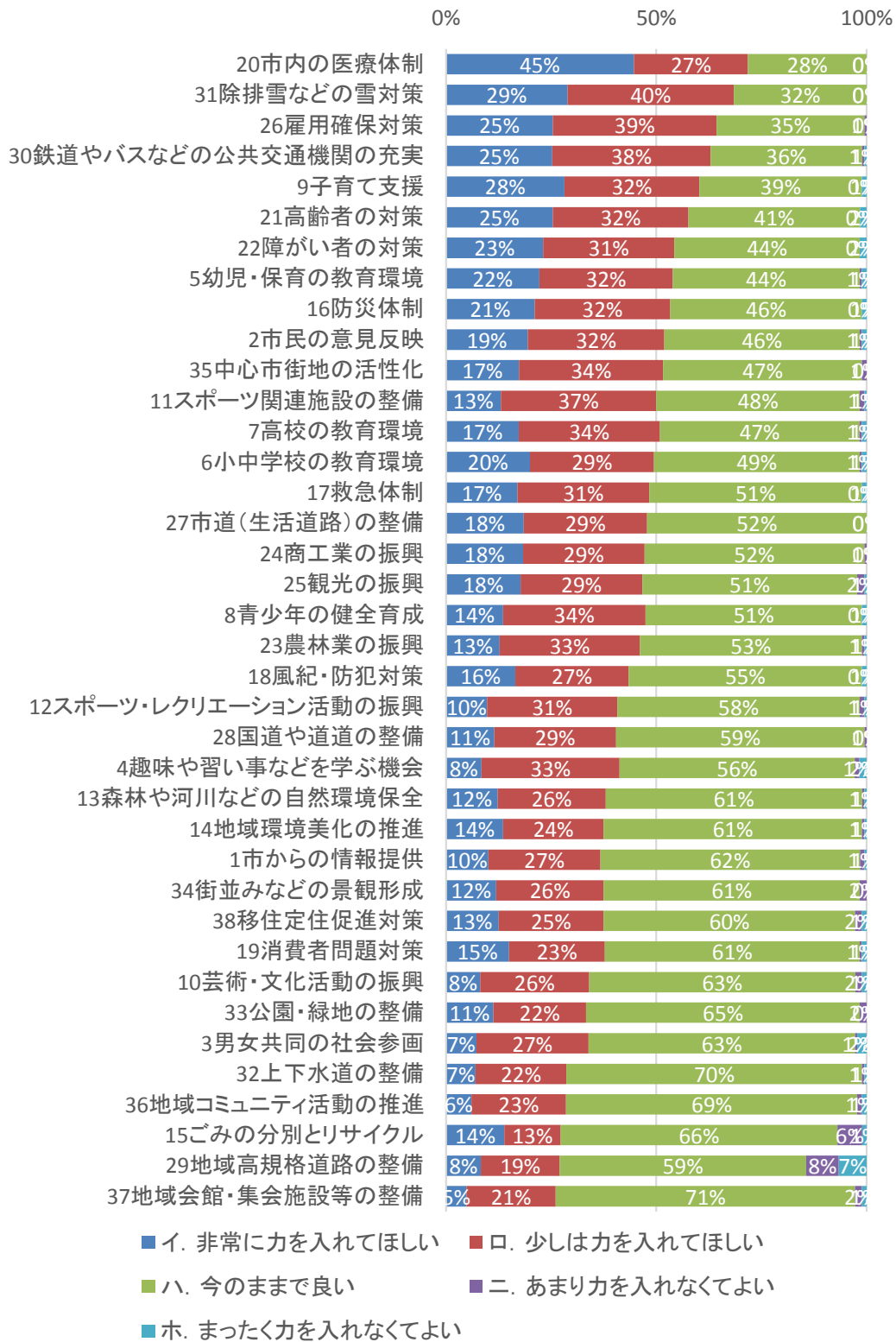


図 3-23. 富良野市の行政に対する期待（市街地居住者）

満足度と今後の希望について、平成 21 年度の整理に従い、横軸を満足度とし

$$\begin{aligned} & ((\text{大変満足} \times 2) + \text{どちらかと言えば満足} \times 1 \\ & - \text{どちらかと言えば不満} \times 1 - (\text{非常に不満} \times 2)) / \text{回収数} \end{aligned}$$

縦軸を今後の希望として

$$\begin{aligned} & ((\text{非常に力を入れてほしい} \times 2) + \text{少しは力を入れてほしい} \times 1 \\ & - \text{あまり力をいれなくてよい} \times 1 - (\text{まったく力をいれなくてよい} \times 2)) / \text{回収数} \end{aligned}$$

として、それぞれの結果をプロットした (図 3-24~45)。

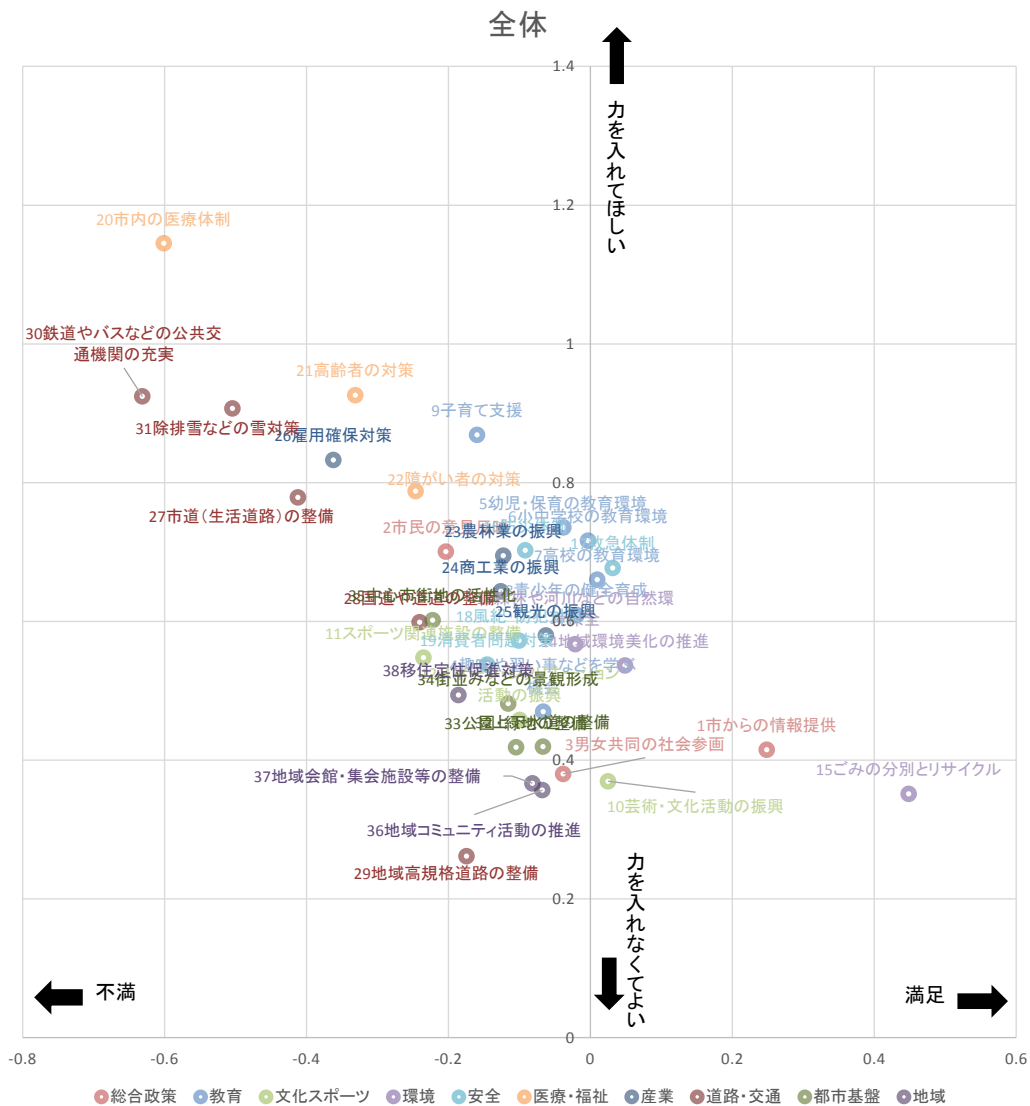


図 3-24. 満足度と今後の希望の関係（全回答者）

全ての項目をプロットすると（図 3-24）、多くの点が横軸（満足度） $-0.30 \sim 0.1$ 、縦軸（力を入れてほしい度） $0.3 \sim 0.7$ の領域に集まっている。そこから外れているものとしては、まず「ごみの分別とリサイクル」と「市からの情報提供」が、図中右下の「満足度」が高く、「力を入れてほしい」度合いが低い領域にある。「力を入れてほしい」度合いがマイナスではないことから、「現状に満足しており、引き続き取り組みを継続してほしい」項目であると解釈される。一方、図中左上の、より「不満」で「力を入れてほしい」領域には「道路・交通」と「医療・福祉」に関わる点が多くある。両者とも、取り組みが期待されている領域と考えられるが、「道路・交通」と「医療・福祉」の分布を比較すると、後者の方が相対的に縦軸の値が高めの領域にあることから、「力を入れてほしい」度合いがより高い課題と推測される。

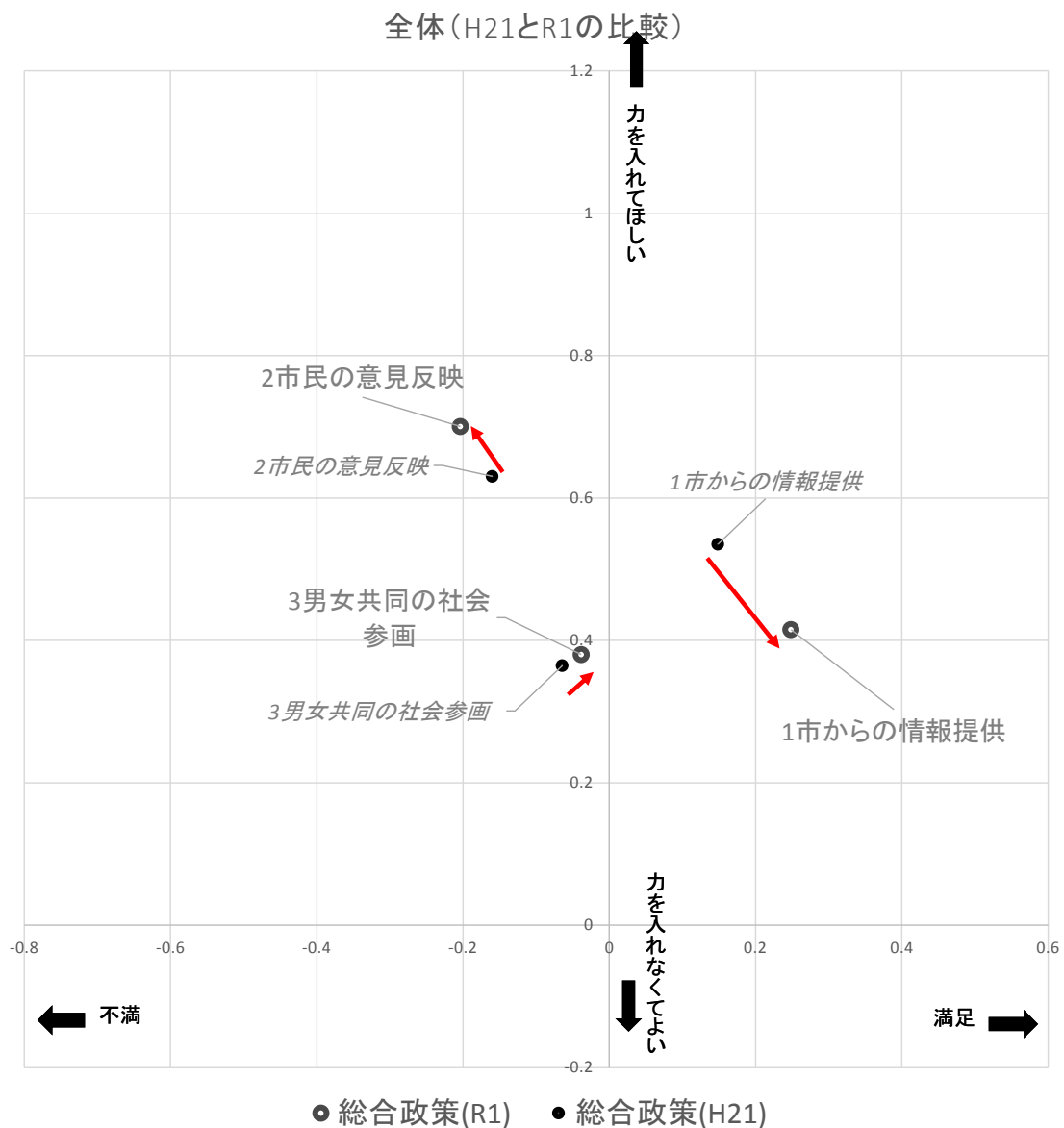


図 3-25. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・総合政策分野)

図 3-25 は「総合政策」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。「市からの情報提供」は「満足度」が上がり、「力を入れてほしい」度合いが低下していた。一方、「市民の意見反映」は、わずかながら「不満度」と「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。「男女共同の社会参画」はわずかながら、「満足度」と「力を入れてほしい」の両者が上昇した。

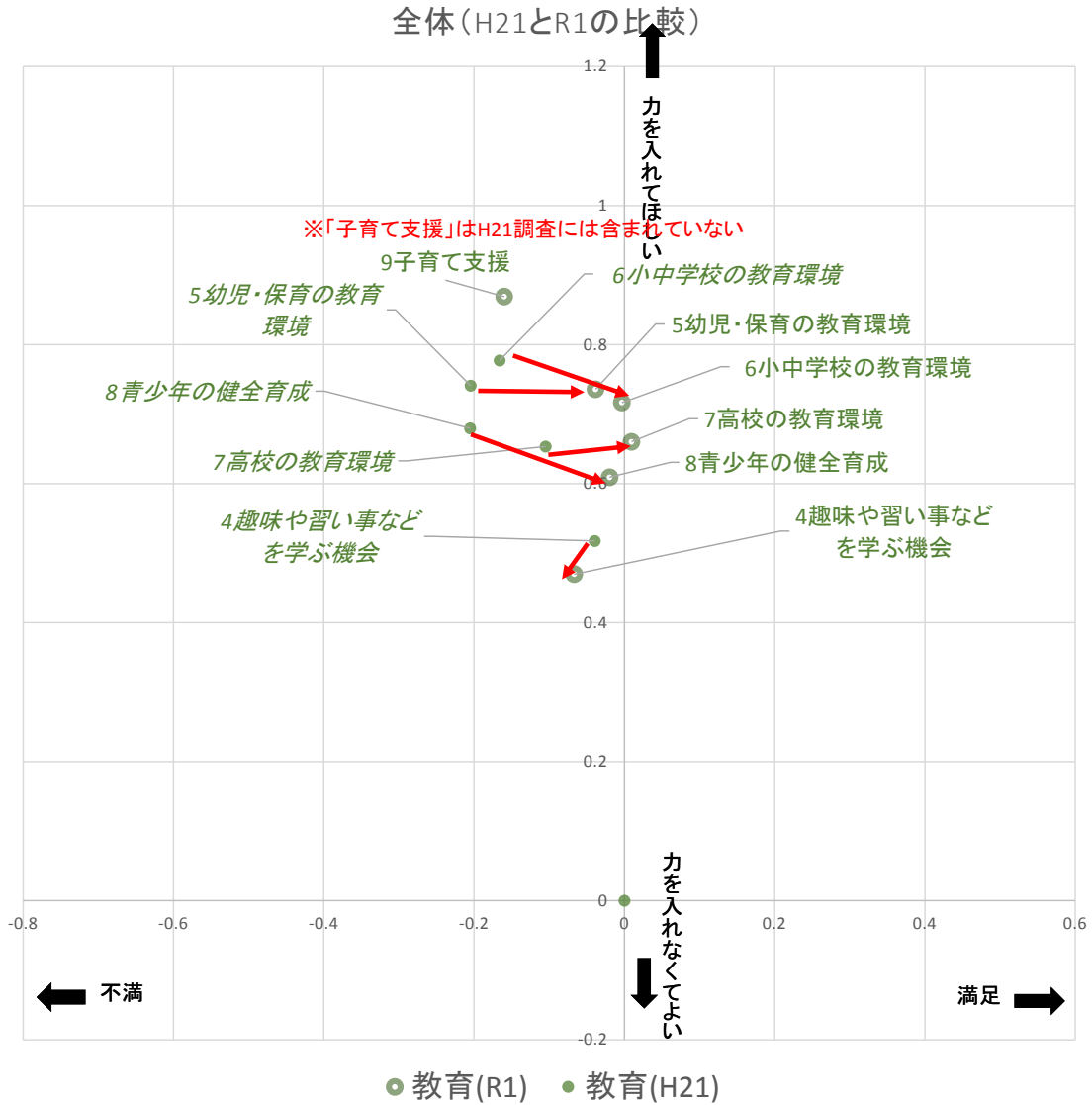


図 3-26. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・教育分野)

図 3-26 は「教育」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。ほとんどの項目が図中右方向に変化、すなわち、「満足度」が上昇していた。「趣味や習い事などを学ぶ機会」のみ、わずかであるが「満足度」の低下と「力を入れてほしい」度合いの低下が見られた。

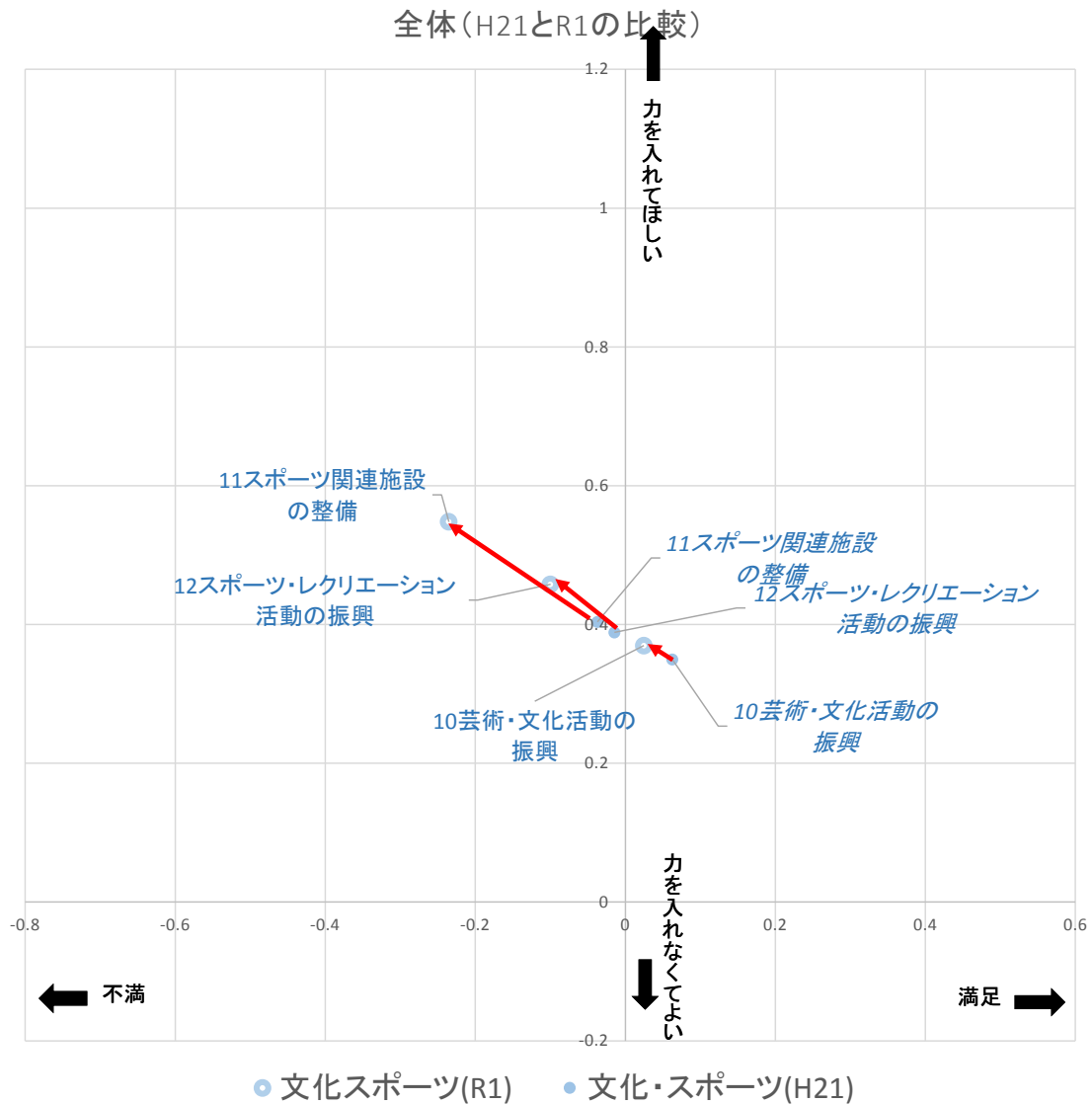


図 3-27. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・文化・スポーツ分野)

図 3-27 は「文化・スポーツ」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。いずれの項目も、「満足度」が低下し「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。中でも変化が大きかったものは「スポーツ関連施設の整備」であった。

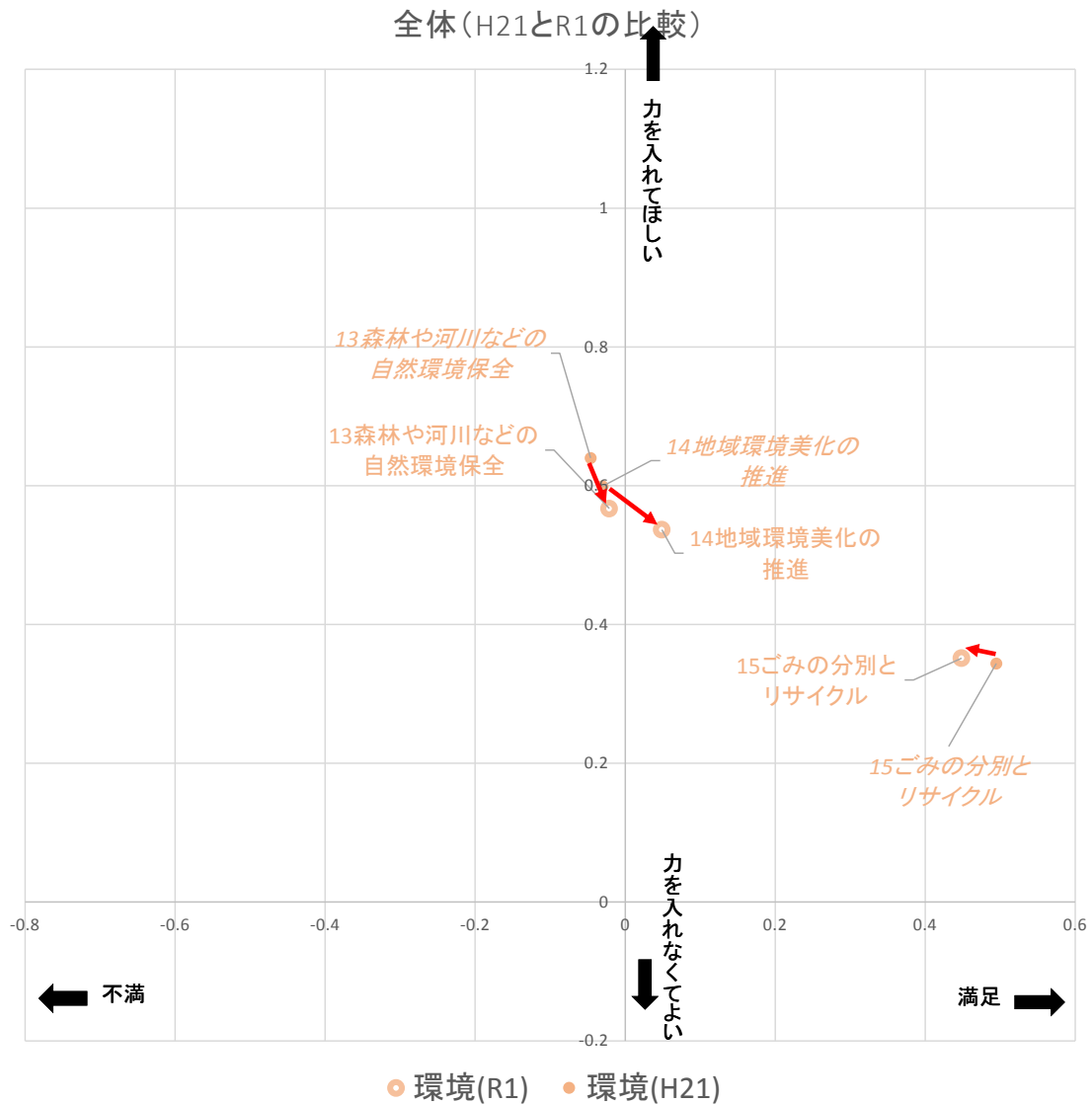


図 3-28. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・環境分野)

図 3-28 は「環境」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。「森林や河川などの自然環境保全」はわずかながら「満足度」が上がり、「力を入れてほしい」度合いが低下していた。一方、「ごみの分別とリサイクル」は、わずかながら「満足度」が低下し「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。

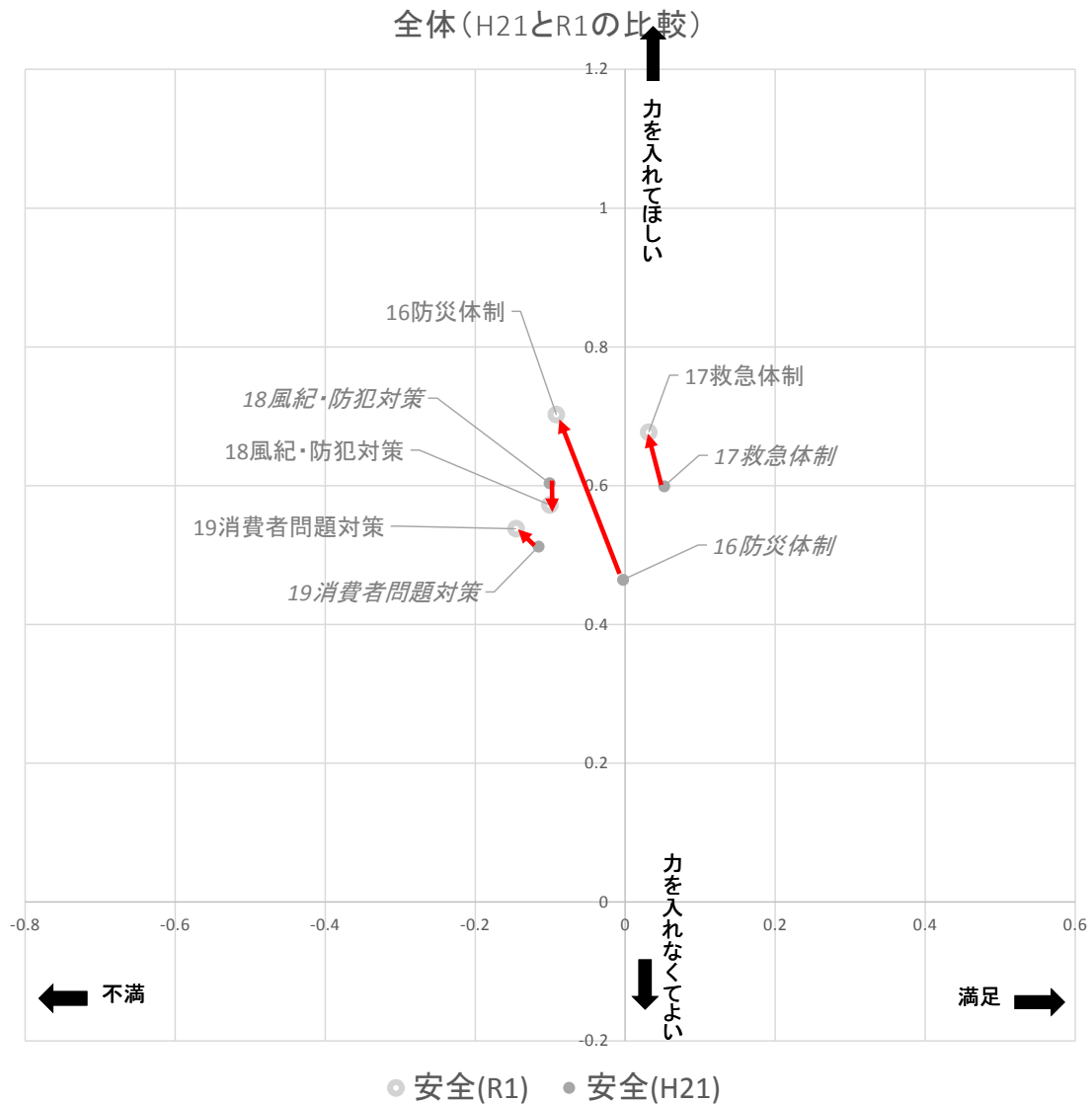


図 3-29. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・安全分野)

図 3-29 は「安全」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。「風紀・防犯対策」は「満足度」は変わらず、「力を入れてほしい」度合いがわずかに低下していた。「防災体制」「救急体制」はいずれも「満足度」度がわずかに低下し「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。「消費者問題対策」も「満足度」が低下し「力を入れてほしい」度合いが上昇していたが、変化はわずかであった。

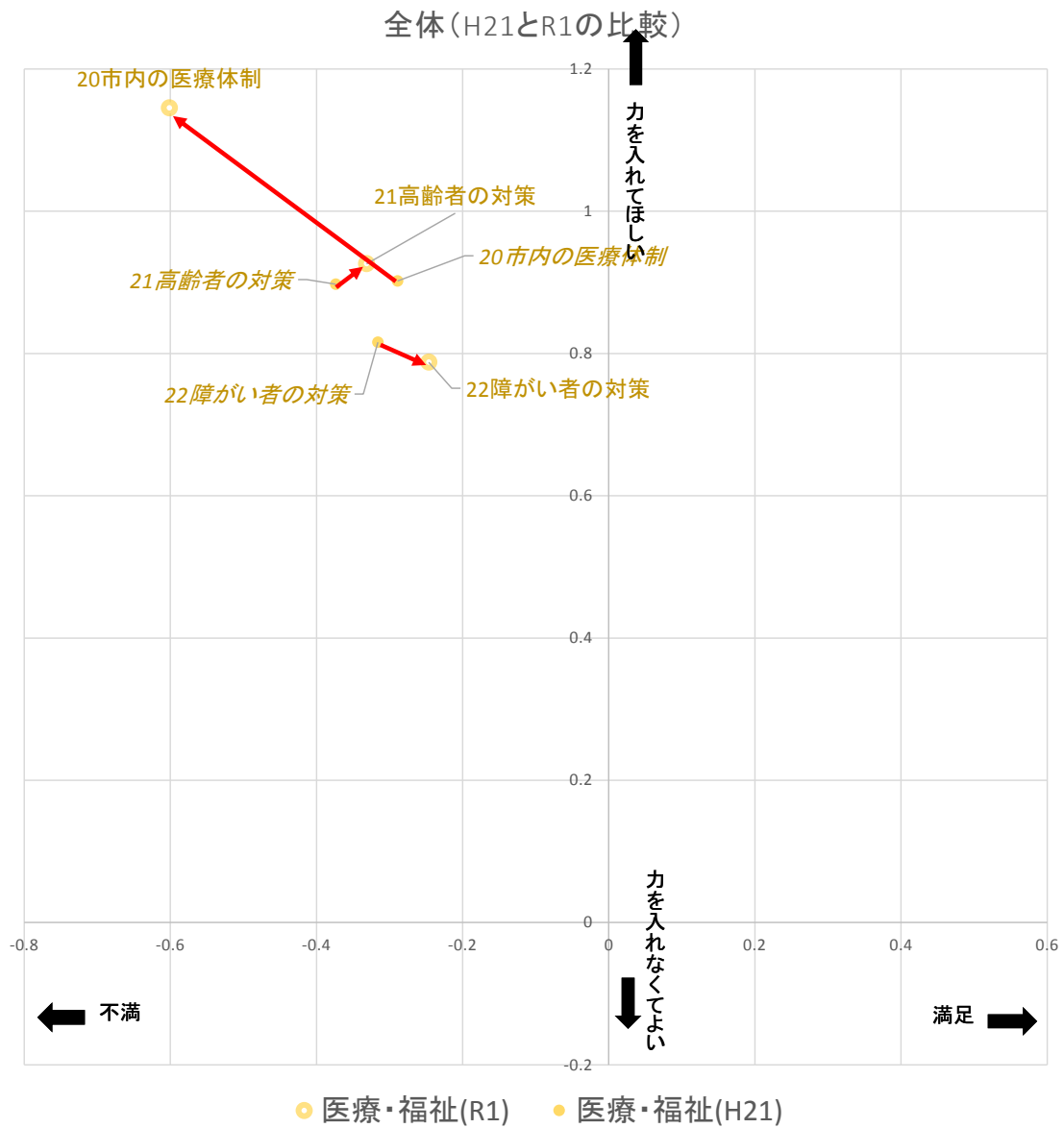


図 3-30. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・医療・福祉分野)

図 3-30 は「医療・福祉」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。「高齢者の対策」と「障がい者の対策」はわずかながら満足度が上昇した。一方、「市内の医療体制」は「満足度」度が低下し「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。

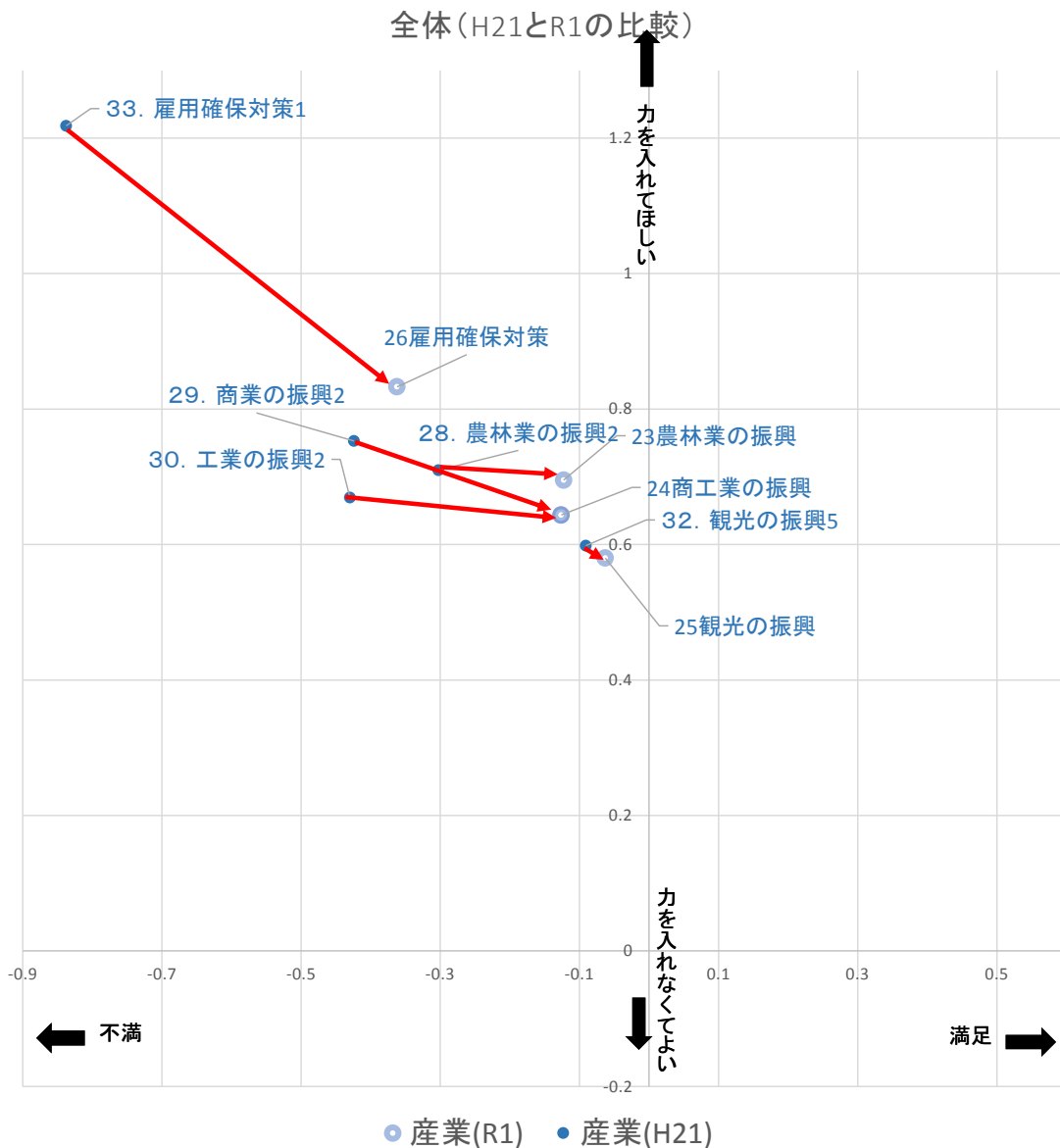


図 3-31. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・産業分野)

図 3-31 は「産業」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。いずれの項目も「満足度」が上昇し、「力を入れてほしい」度合いが横ばいもしくは低下していた。中でも変化が大きかったのは「雇用確保対策」であった。

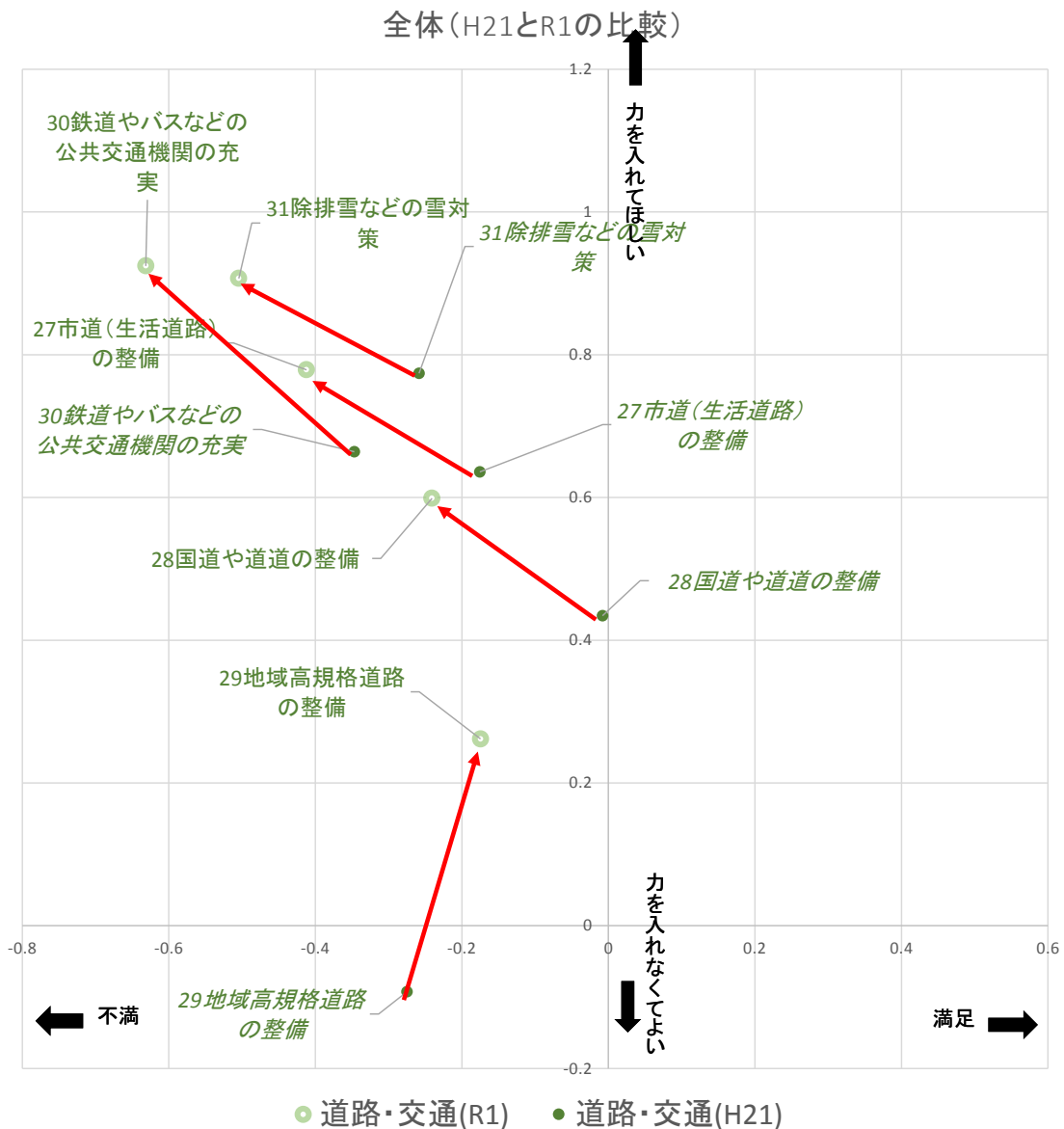


図 3-32. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・道路・交通分野)

図 3-32 は「道路・交通」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。「市道(生活道路)の整備」、「国道や道道の整備」、「鉄道やバスなどの公共交通機関の充実」、「除排雪などの雪対策」はいずれも「満足度」が低下し、「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。「地域高規格道路の整備」は「満足度」度が上昇し「力を入れてほしい」度合いも上昇していた。

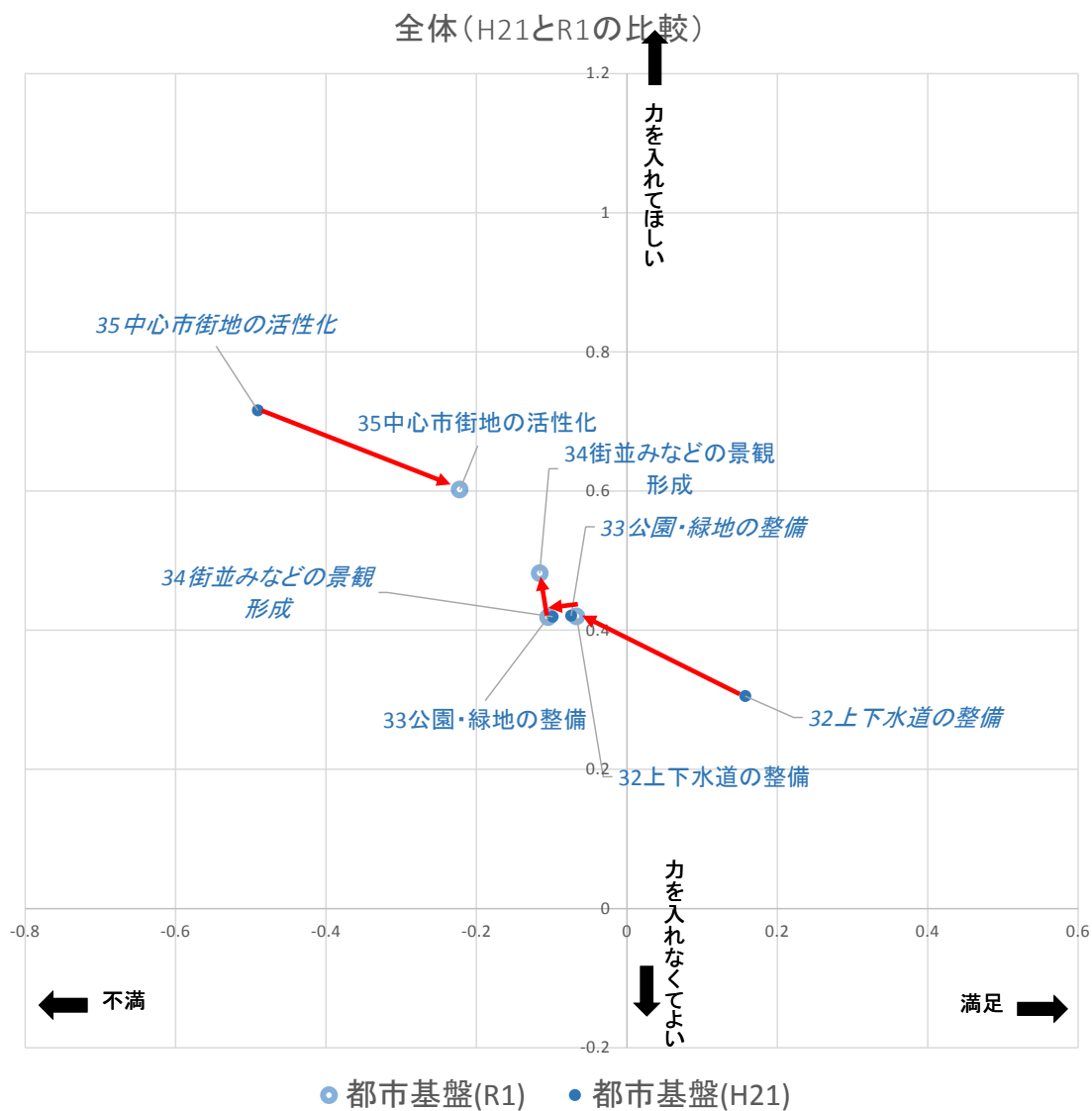


図 3-33. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・都市基盤分野)

図 3-33 は「都市基盤」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。「中心市街地の活性化」は「満足度」が上昇し、「力を入れてほしい」度合いが低下していた。「上下水道の整備」は「満足度」度が低下し「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。このほか、「公園・緑地の整備」「街並みなどの景観形成」もわずかながら「満足度」の低下が見られた。

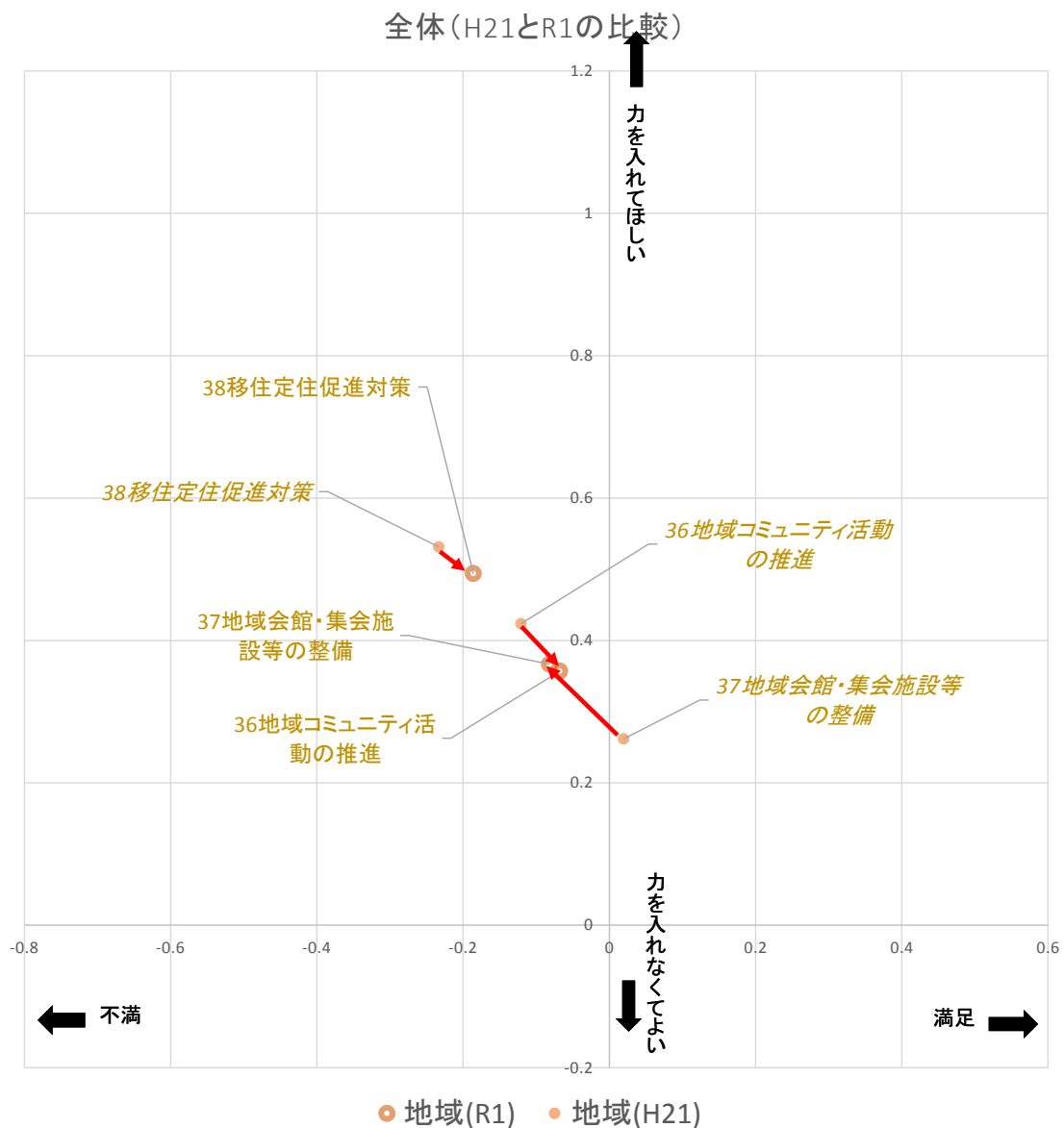


図 3-34. 満足度と今後の希望の関係 (H21 との比較・地域分野)

図 3-34 は「地域」に関する項目を平成 21 年度調査の結果と比較したものである。「地域コミュニティ活動の推進」、「移住定住促進対策」は「満足度」が上昇し、「力を入れてほしい」度合いが低下していた。「地域会館・集会施設等の整備」は「満足度」が低下し「力を入れてほしい」度合いが上昇していた。

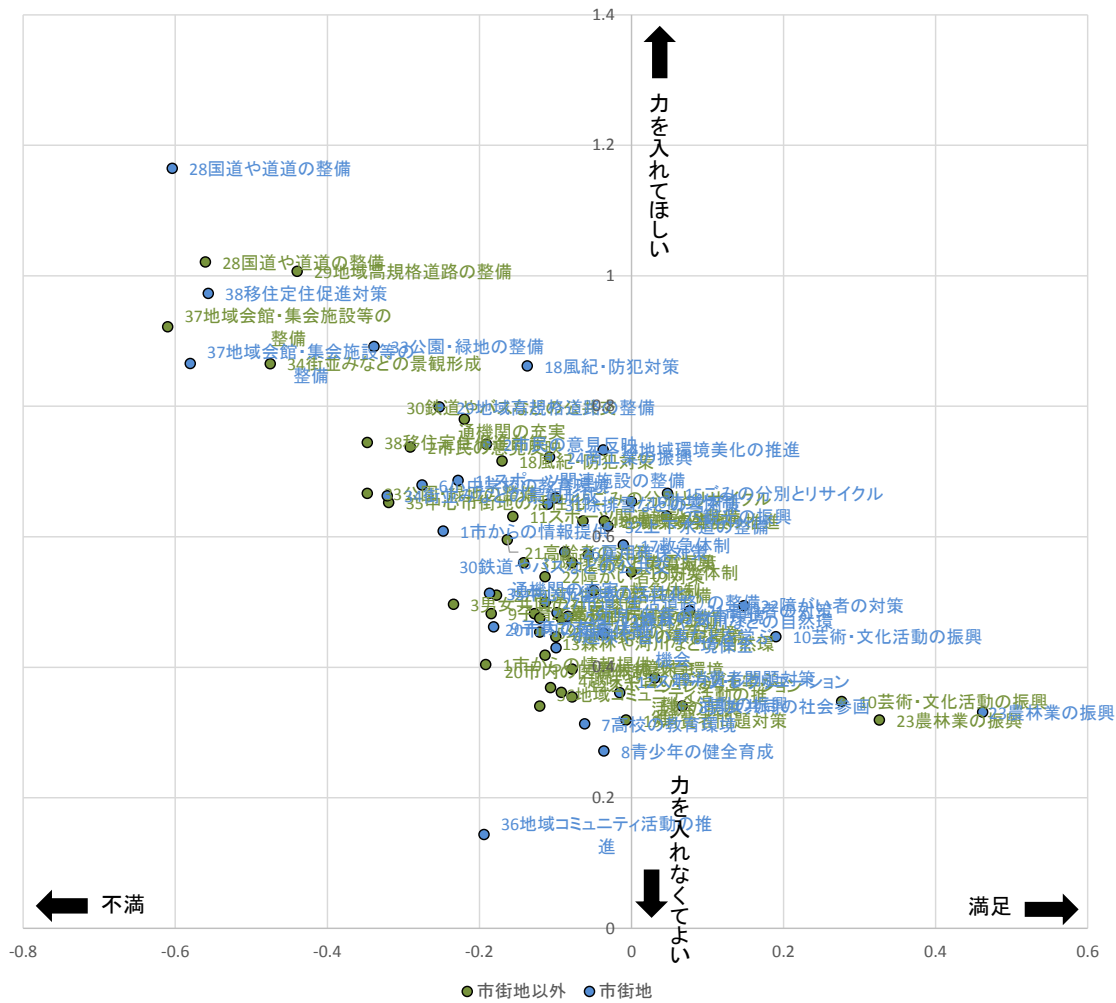


図 3-35. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外）

図 3-35 は、市街地と市街地以外の回答者を分けてプロットしたものである。以下、項目の分野ごとに分けて比較する。

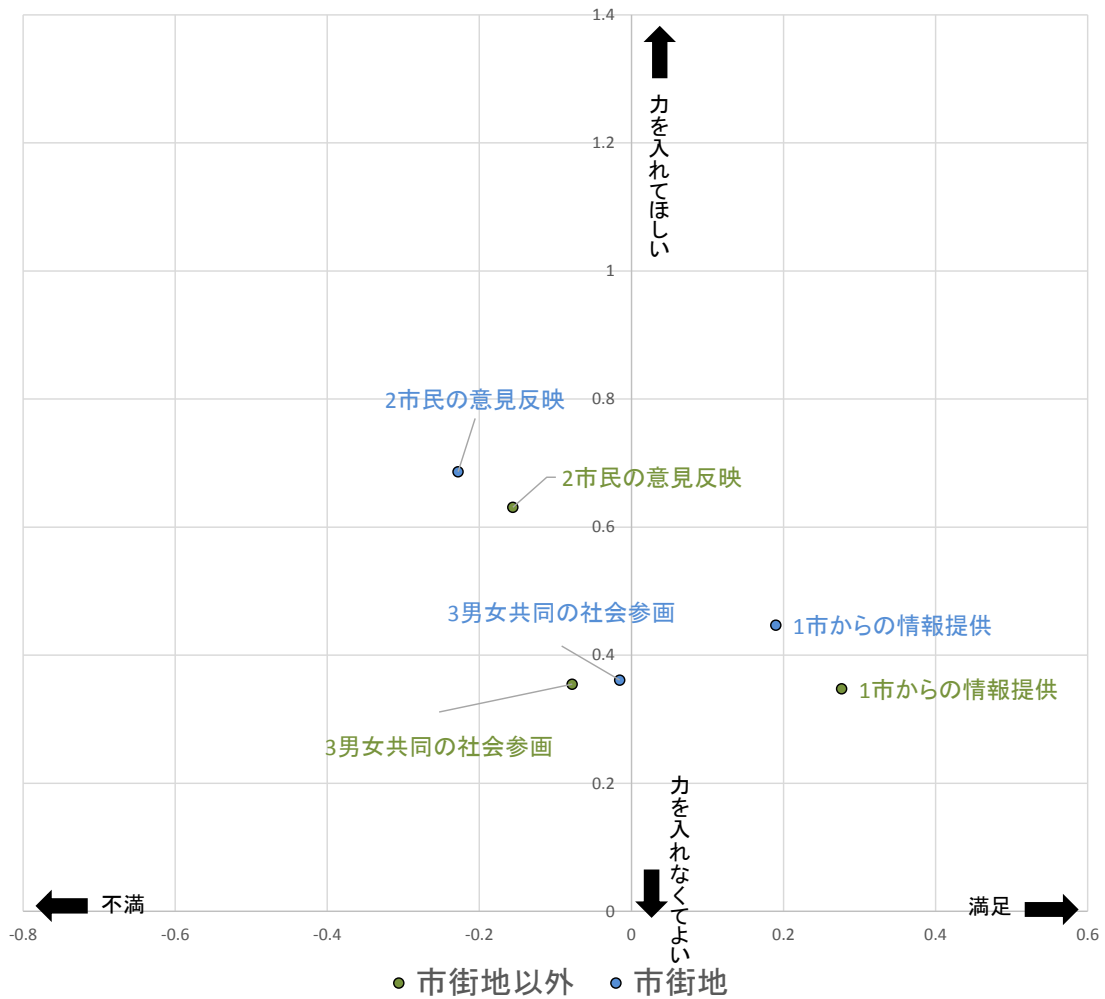


図 3-36. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・総合政策分野）

図 3-36 は「総合政策」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。「市からの情報提供」、「市民の意見反映」は市街地以外の方が相対的に「満足度」が高く、「力を入れてほしい」度合いが低い。一方、「男女共同の社会参画」は市街地以外の方が相対的に「満足度」が低く「力を入れてほしい」度合いは同程度であった。

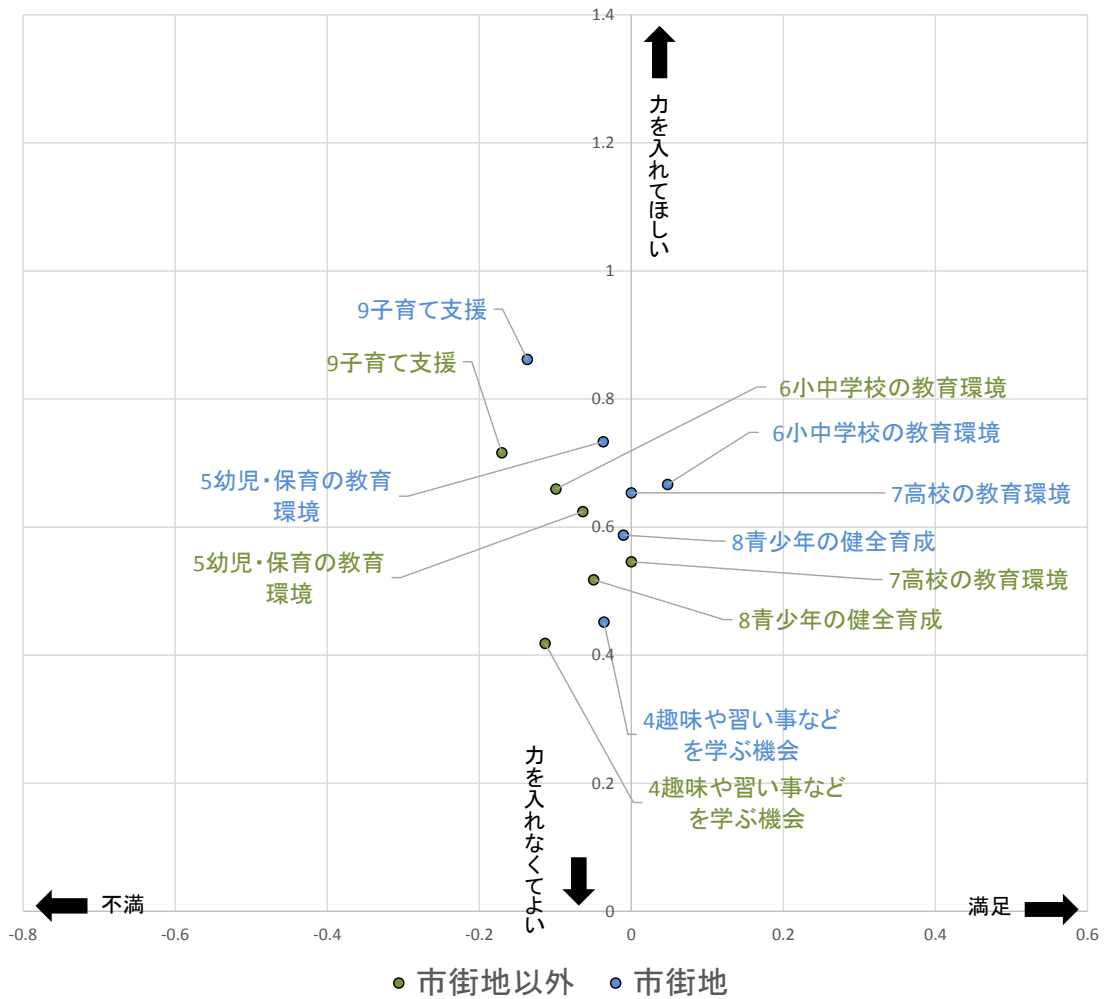


図 3-37. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・教育分野）

図 3-37 は「教育」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。ほとんどの項目において、市街地以外の方が相対的に「満足度」が低く、「力を入れてほしい」度合いも低かった。「高校の教育環境」は、「満足度」は同じであったが、「力を入れてほしい」度合いは市街地以外の方が相対的に低かった。

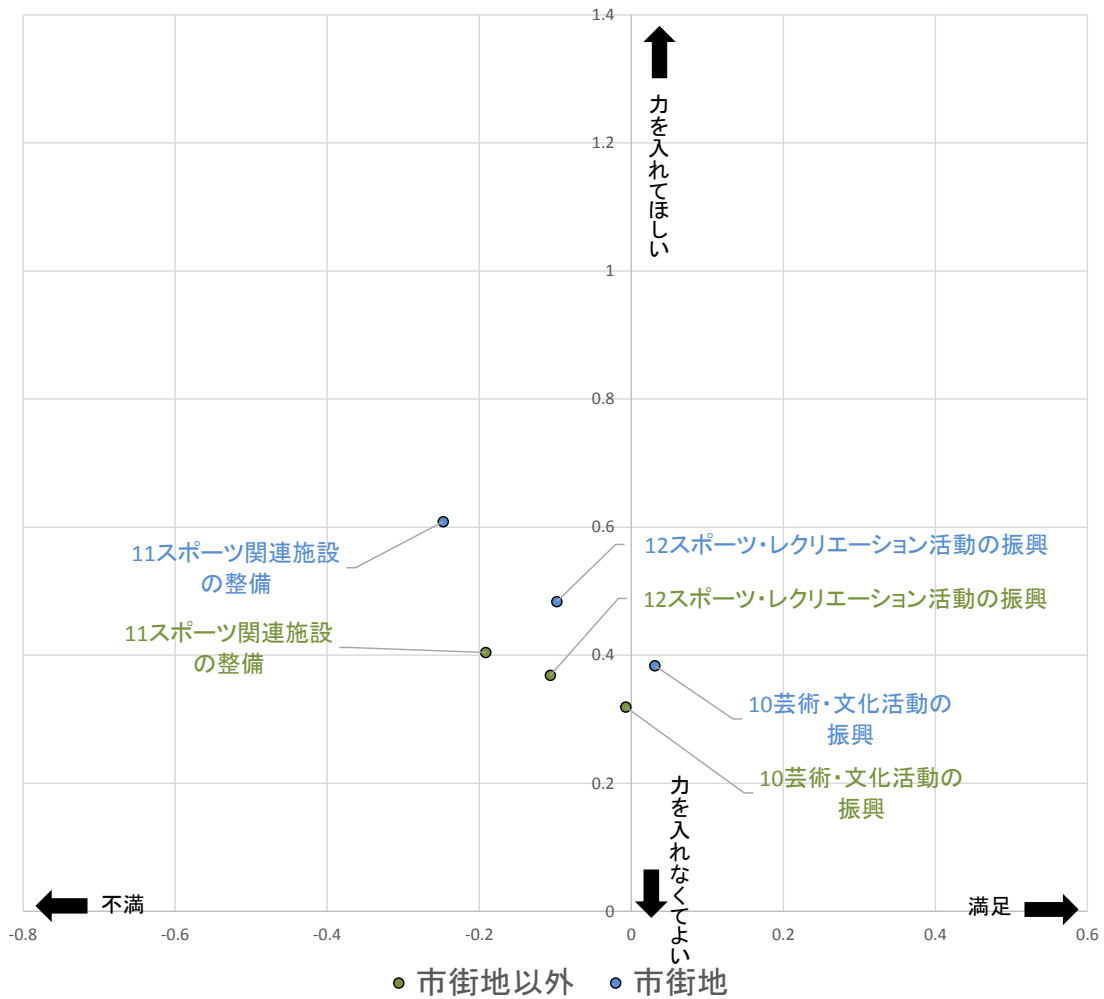


図 3-38. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・文化・スポーツ分野）

図 3-38 は「文化・スポーツ」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。いずれの項目も、市街地以外の方が相対的に「力を入れてほしい」度合いが低かった。「満足度」は「スポーツ・レクリエーション活動の振興」は同程度、「芸術・文化活動の振興」は市街地以外の方が低く、「スポーツ関連施設の整備」は市街地以外の方が相対的に高かった。

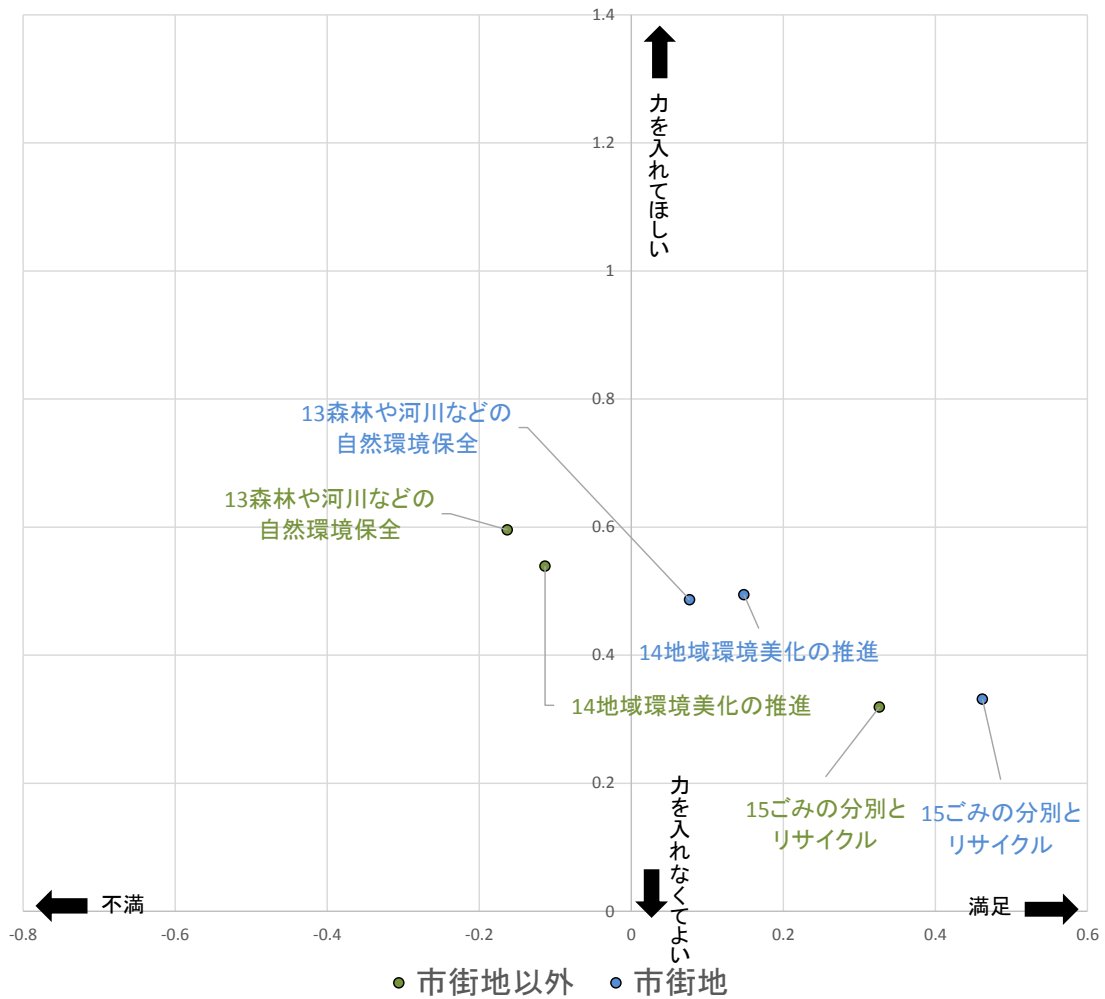


図 3-39. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・環境分野）

図 3-39 は「環境」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。いずれの項目も、「力を入れてほしい」度合いは市街地以外の方がやや高めか同程度で、「満足度」は市街地以外の方が相対的に低かった。

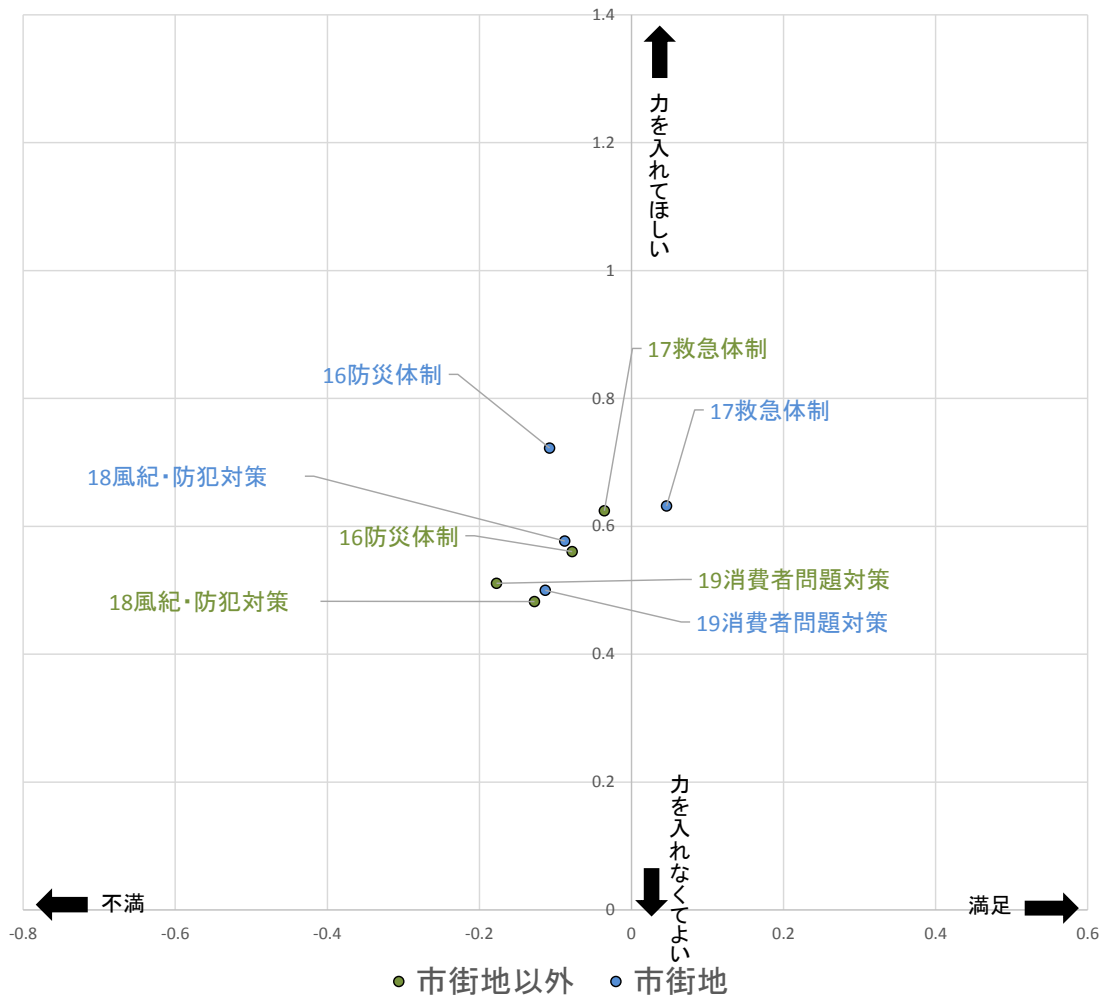


図 3-40. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・安全分野）

図 3-40 は「安全」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。ほとんどの項目において、市街地以外の方が相対的に「満足度」が低く、「力を入れてほしい」度合いは市街地以外の方が低いか同程度であった。「防災体制」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」が高く、「力を入れてほしい」度合いは低かった。

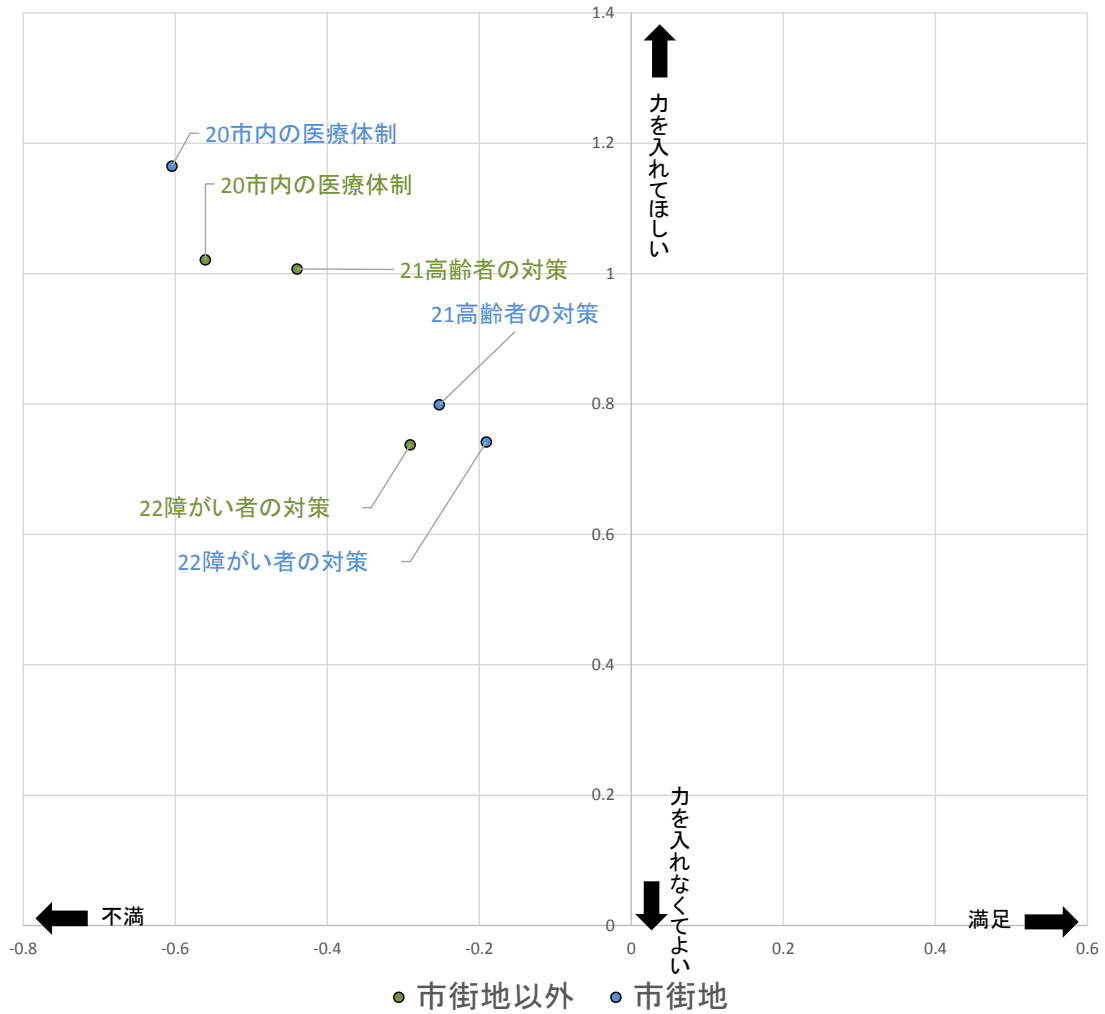


図 3-41. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・医療・福祉分野）

図 3-41 は「医療・福祉」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。「市内の医療体制」は市街地以外の方が相対的に「満足度」が高く、「力を入れてほしい」度合いが低かった。「高齢者の対策」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」が低く、「力を入れてほしい」度合いは高かった。「障がい者の対策」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」は低く、「力を入れてほしい」度合いは市街地と同程度であった。

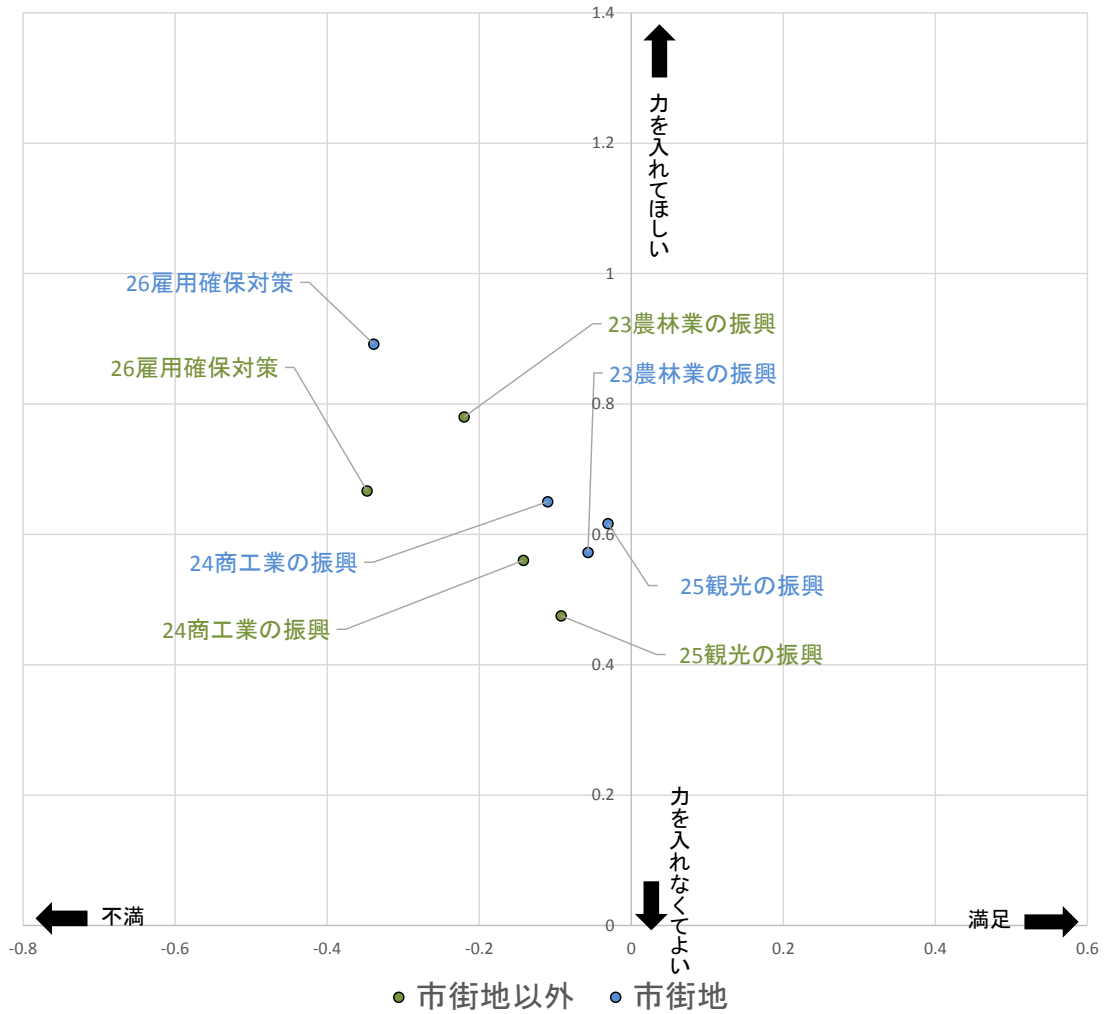


図 3-42. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・産業分野）

図 3-42 は「産業」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。「商工業の振興」、「観光の振興」、「雇用確保対策」においては、「満足度」は同程度か市街地以外の方がやや低く、「力を入れてほしい」度合いは市街地以外の方が低かった。「農林業の振興」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」が低く、「力を入れてほしい」度合いは高かった。

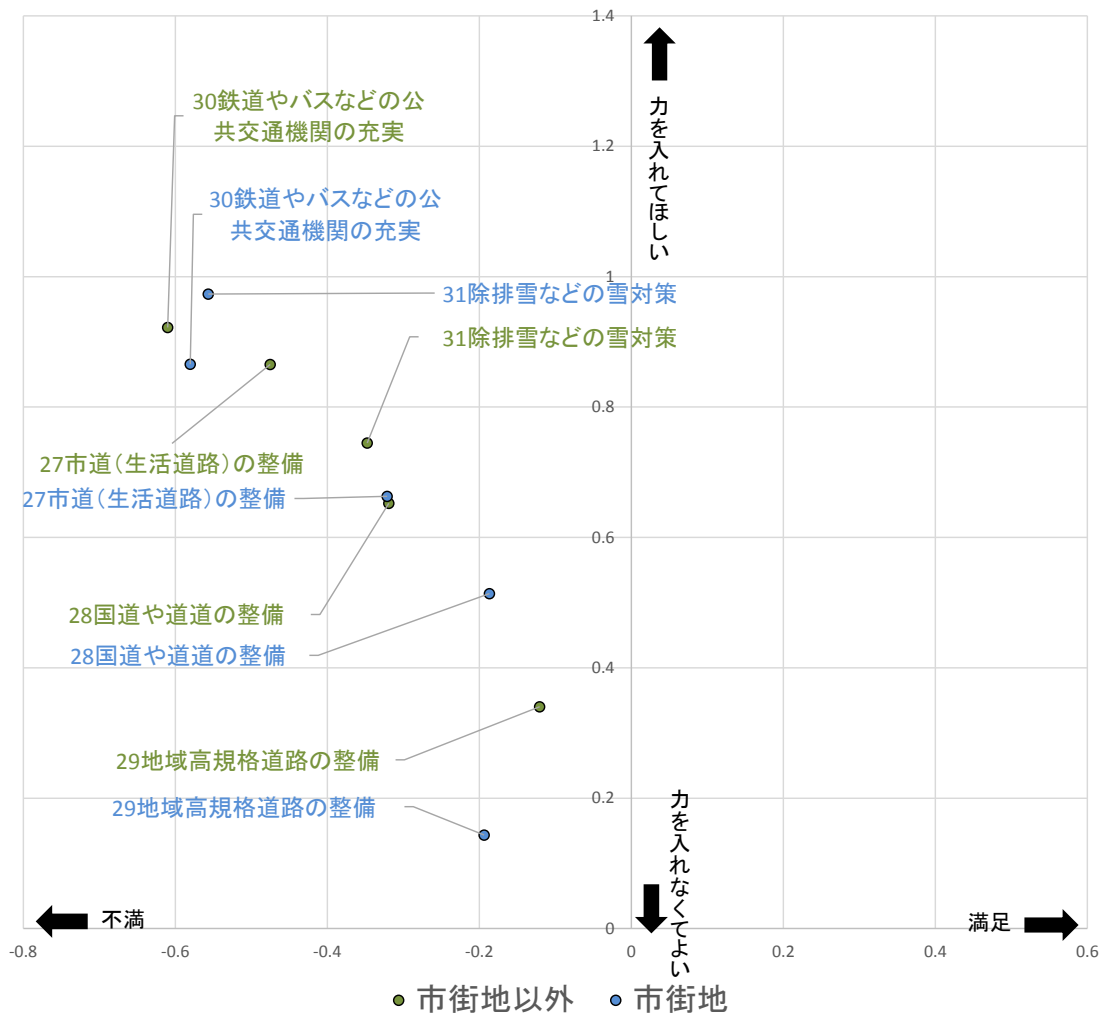


図 3-43. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・道路・交通分野）

図 3-43 は「道路・交通」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。「市道(生活道路)の整備」、「国道や道道の整備」、「鉄道やバスなどの公共交通機関の充実」は市街地以外の方が相対的に「満足度」が低く、「力を入れてほしい」度合いが高かった。一方、「除排雪などの雪対策」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」が高く、「力を入れてほしい」度合いは低かった。「地域高規格道路の整備」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」は高く、「力を入れてほしい」度合いも高かった。

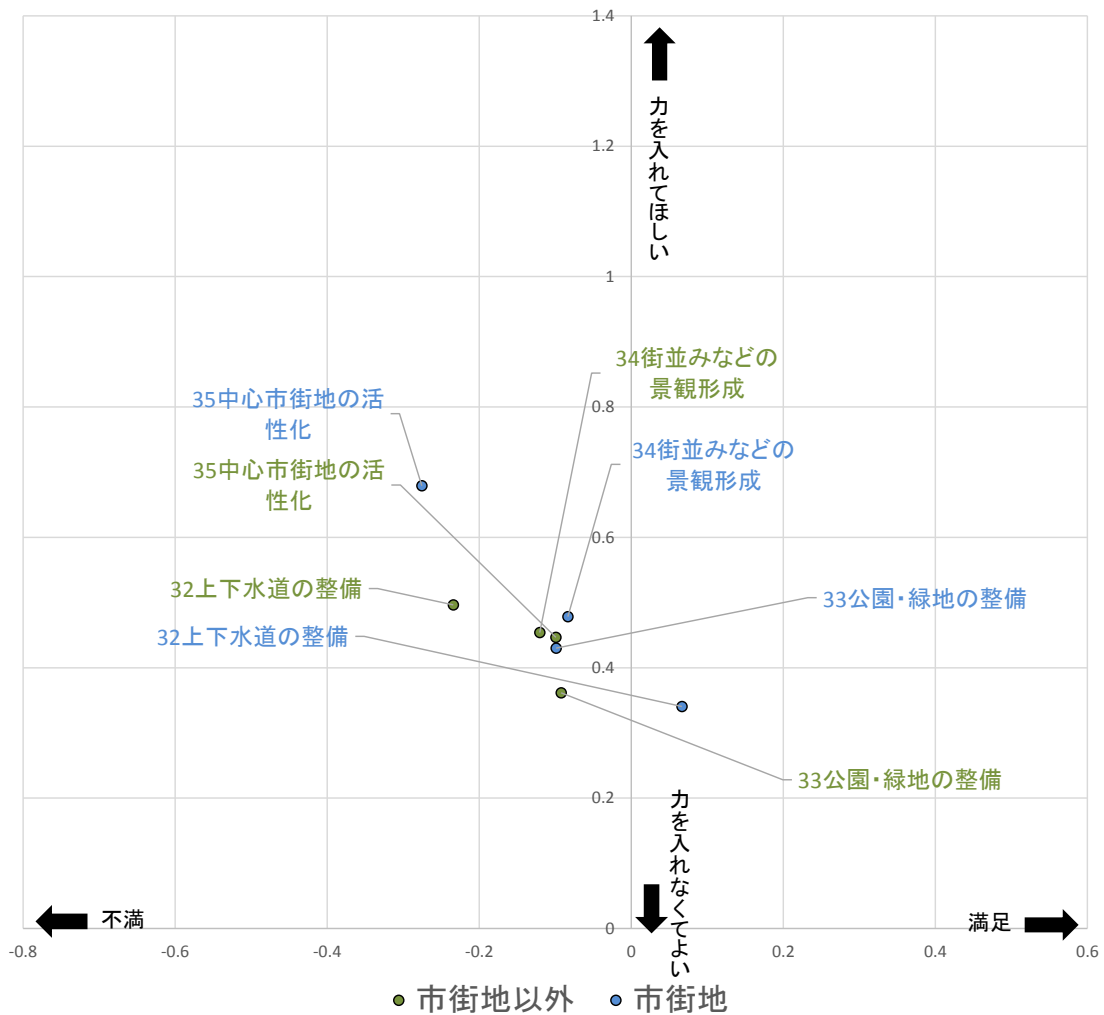


図 3-44. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・都市基盤分野）

図 3-44 は「都市基盤」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。「中心市街地の活性化」は市街地以外の方が相対的に「満足度」が高く、「力を入れてほしい」度合いが低かった。「公園・緑地の整備」は、「満足度」は同程度であったが「力を入れてほしい」度合いは市街地以外の方が相対的に低かった。「上下水道の整備」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」が低く、「力を入れてほしい」度合いは高かった。「街並みなどの景観形成」は、市街地以外の方が相対的に「満足度」は低く、「力を入れてほしい」度合いも低かったが、違いはわずかであった。

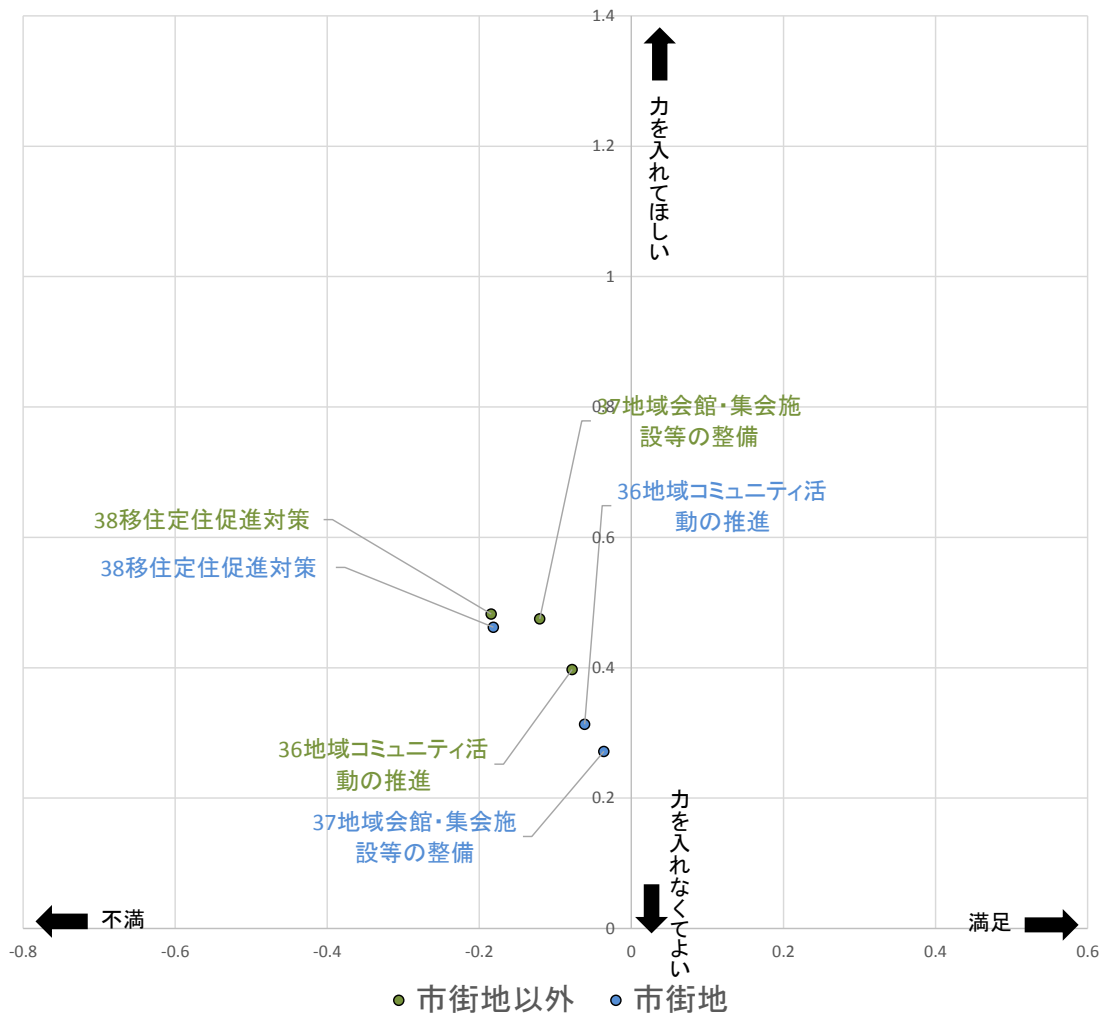


図 3-45. 満足度と今後の希望の関係（市街地と市街地以外の比較・地域分野）

図 3-45 は「地域」に関する項目を市街地と市街地以外で比較したものである。いずれの項目も、「満足度」は同程度か市街地以外の方が相対的にやや低く、「力を入れてほしい」度合いは市街地以外の方が高かった。

⑤ 住み続け意向に関する回答

全体で見ると、68%の回答者が「住み続けたいと思っており、実際、住み続けるつもりだ」と回答した(図 3-46)。市街地と市街地以外で分けても、市街地以外で住み続け意向が若干強いものの、大まかな傾向は似ていた。

「住み続けたいと思っているが、住み続けることが難しそうだ」が全体、市街地、市街地以外のいずれにおいても、1割前後存在し、この層に対して住み続けの障壁となる課題を取り除くことは重要と思われる。

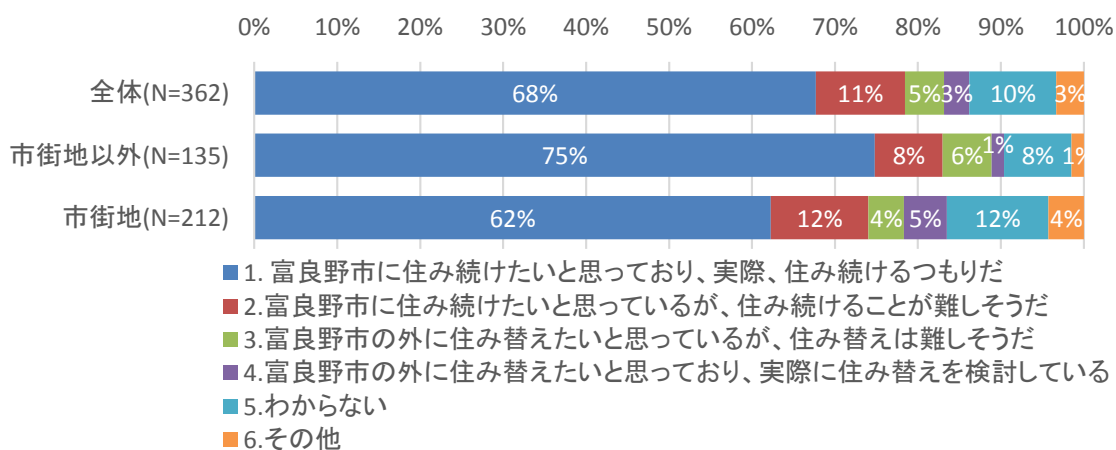


図 3-46. 住み続け意向

⑥富良野市と周辺市町村および札幌市、東京都との比較評価に関する回答

富良野市と周辺市町村および札幌市、東京都を比較してもらった結果を、表 3-2 および図 3-47～3-49 に示す。表 3-2 で見ると、「イメージが良い」「親しい人がいる」「緑や自然が豊か」については、富良野市は全ての比較対象より高いスコアであった。「子育て環境が良い」については、中富良野町以外の全ての比較対象より高いスコアであった。一方、「物価家賃が安い」については、東京都以外の全ての比較対象よりも低いスコアであった。「活気がある」、「買い物が便利」、「素敵な店が多い」、「働く場が多い」、「医療福祉がよい」については、旭川市、札幌市、東京都よりは低い、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村よりは高いスコアであった。

表 3-2. 富良野市と周辺市町村及び札幌市、東京都との比較評価

	富 良 野 市	旭 川 市	札 幌 市	東 京 都	上	中	南	占 冠 村
					富 良 野 町	富 良 野 町	富 良 野 町	
(ア)イメージがよい	185	56	110	52	48	77	39	41
(イ)親しい人がいる	186	56	81	34	48	46	24	13
(ウ)活気がある	27	78	195	153	9	16	6	6
(エ)緑や自然が豊か	258	43	34	10	153	164	169	169
(オ)物価家賃が安い	16	29	24	4	25	30	28	23
(カ)買い物が便利	41	206	205	130	8	9	0	1
(キ)素敵な店が多い	12	77	156	135	2	7	3	3
(ク)働く場が多い	14	80	160	147	8	3	5	2
(ケ)子育て環境がよい	37	16	36	15	11	50	31	19
(コ)医療福祉がよい	29	104	111	82	7	22	23	5

■ 富良野市の方が多い ■ 富良野市の方が少ない

富良野市と富良野圏域他市町村

— 富良野市 — 上富良野町 — 中富良野町 — 占冠村

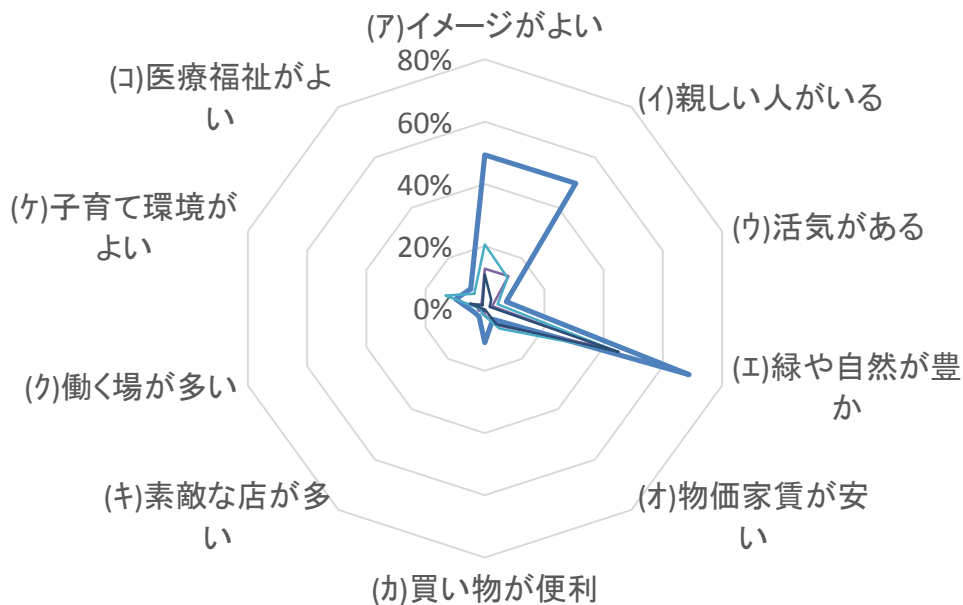


図 3-47. 富良野市と富良野圏域他市町村との比較評価（全回答者 N=375）

富良野市と都市

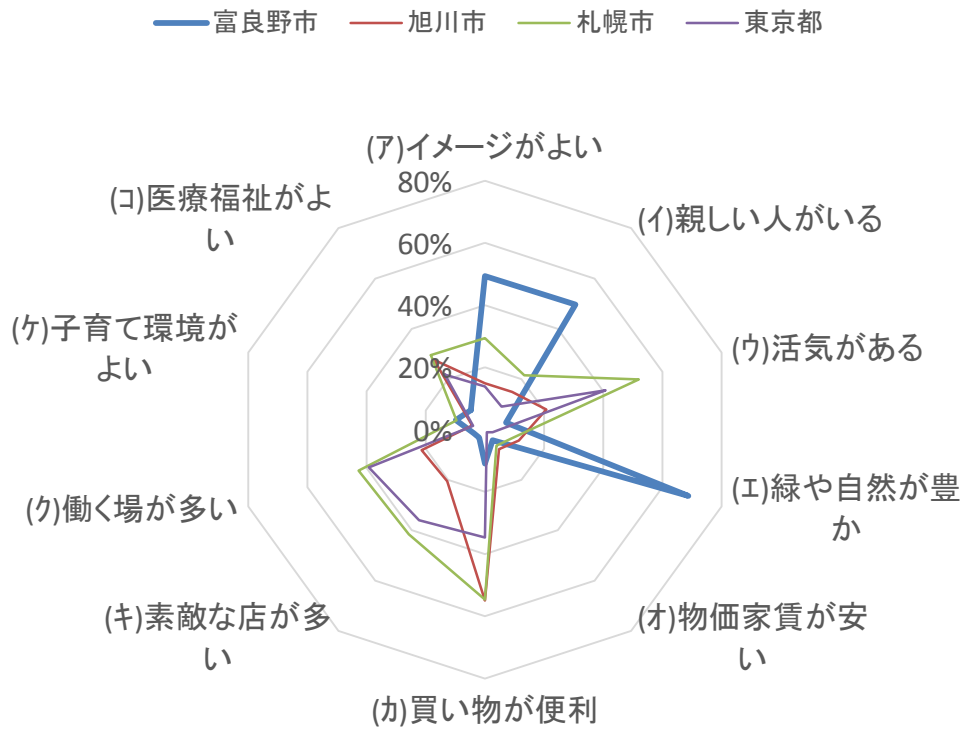


図 3-48. 富良野市と都市との比較評価（全回答者 N=375）

市街地以外

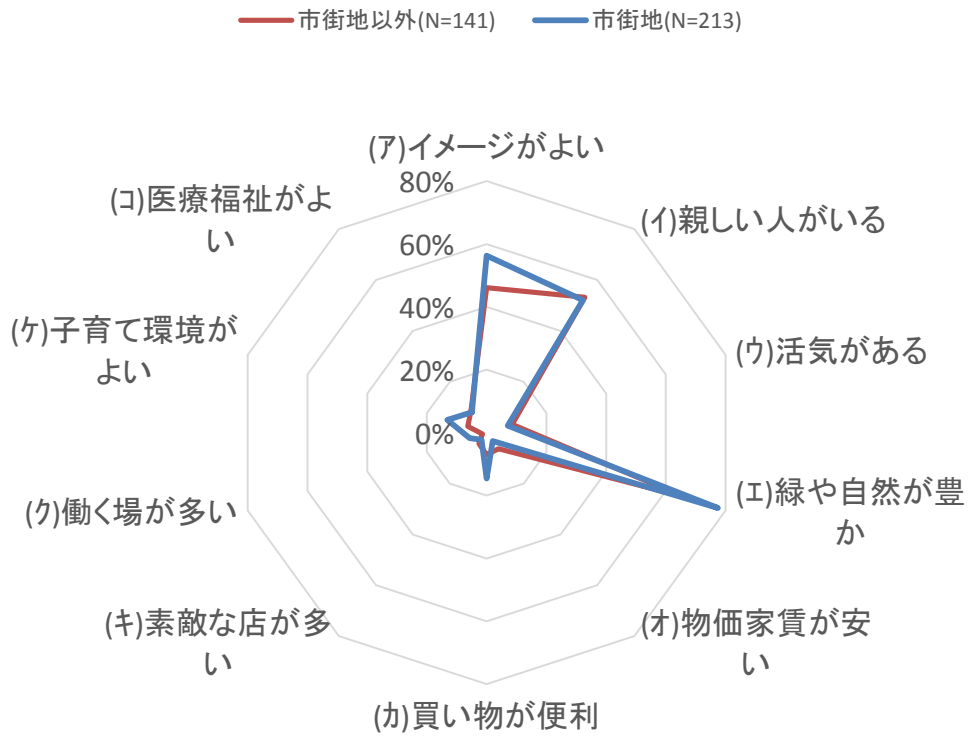


図 3-49. 市街地住民と市街地以外の住民の富良野市の評価

⑦富良野市の魅力に関する回答

将来に残したい「富良野市の良いところ」は、「農産物などの食べ物がおいしい」、「豊かな自然と景観」、「ゴミ分別やリサイクルなどの環境にやさしいとりくみ」、「全国的に知られる「ふらの」ブランド」、「田舎ののんびりとした環境」が上位となった（図 3-50）。この結果を、市街地と市街地以外で分けると、「ゴミ分別やリサイクルなどの環境にやさしいとりくみ」が市街地において高く、「田舎ののんびりとした環境」が市街地以外で高いなどの違いが見られた。

続いて、『『こうなっていたらいいな』と思う 30 年後の富良野市像』を聞いたところ、全体で見ると「車を持たなくても生活に不便を感じない環境が整っている（55%）」が最も多く、次いで「多様で魅力的な農業経営がなされ、後継者や新規就農者が増えている（47%）」、「安心して子育てできる環境が整い、地域で子どもを大事に育てている（46%）」、「雇用機会が十分あり、暮らしに困らない程度の所得が得られている（43%）」が多い結果であった（図 3-51）。この結果は、市街地と市街地以外で分けても大きな差は見られなかった。

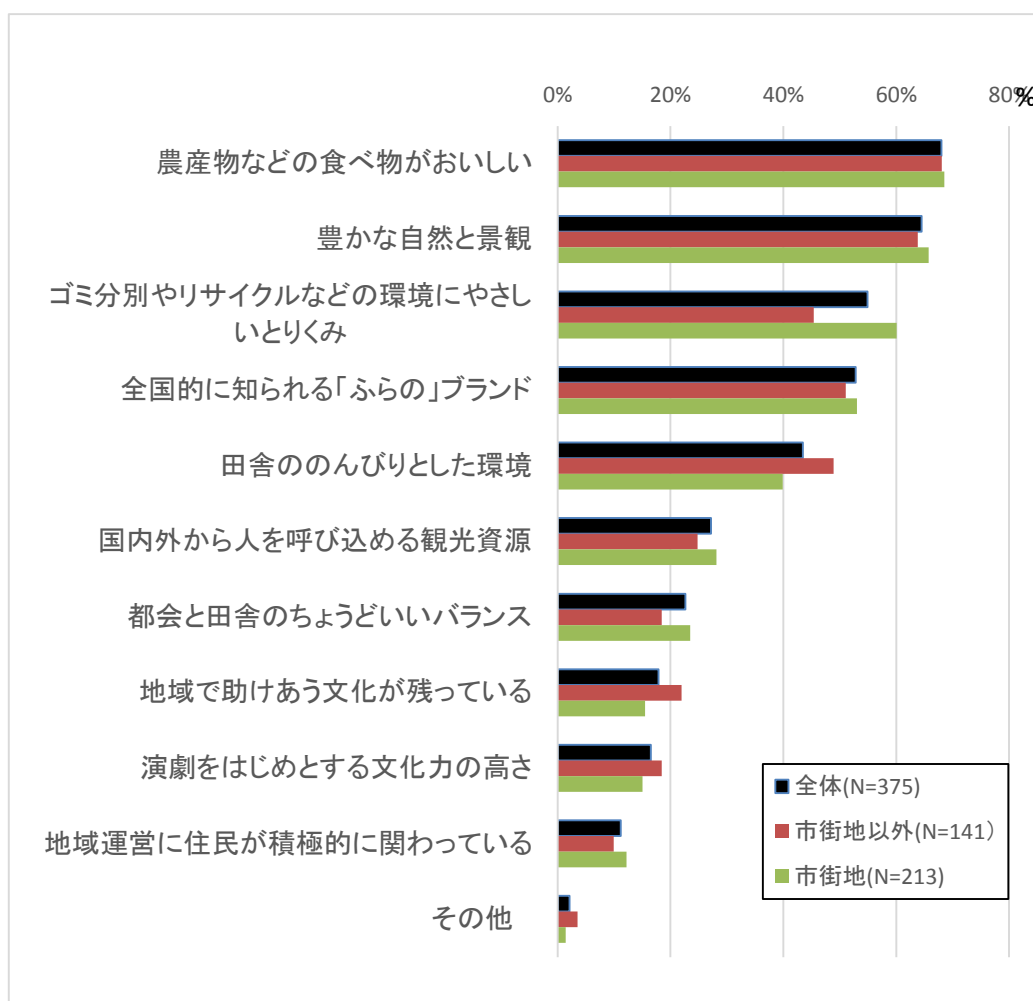


図 3-50. 将来に残したい「富良野市の良いところ」

%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%

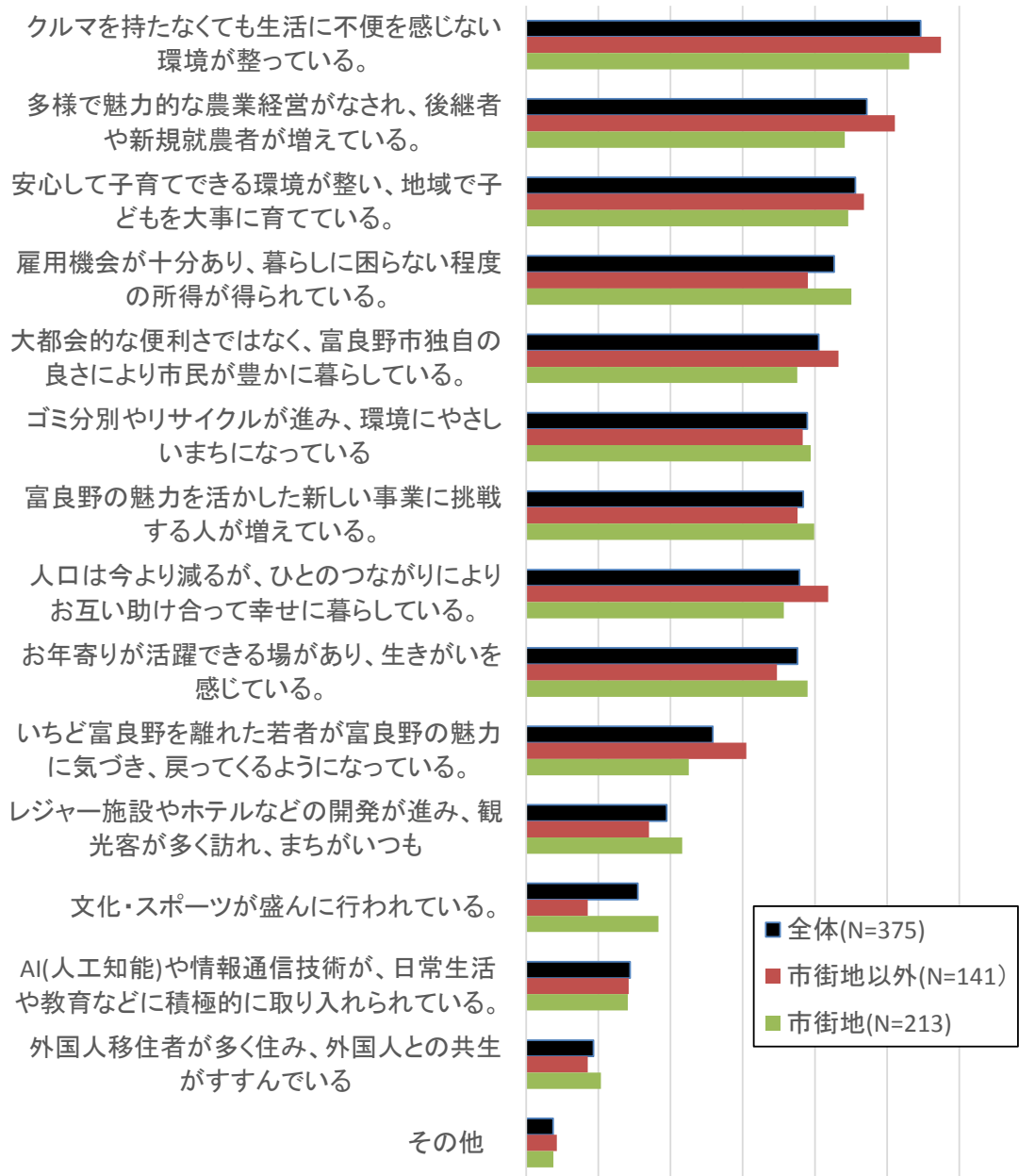


図 3-51. 「こうなっていたらいいな」と思う 30 年後の富良野市像

⑧ 予算配分に関する意見

富良野市の平成 29 年度の歳出を項目別に整理したもの（図 3-52）を提示した上で、「30 年後の富良野市のために予算配分をするとしたら、あなたならどのようにしますか？」と聞いたところ、図 3-52～3-54 に示す結果となった。全体で見ると、「増額する」の上位は「民生費（39%）」「教育費（37%）」「災害復旧費（32%）」であった（図 3-53）。市街地と市街地以外で分けると、市街地以外では「増額する」の上位は「民生費（43%）」「災害復旧費（35%）」「農林業費（32%）」であったのに対し（図 3-54）、市街地では「教育費（41%）」「民生費（39%）」「災害復旧費（30%）」であった（図 3-55）。

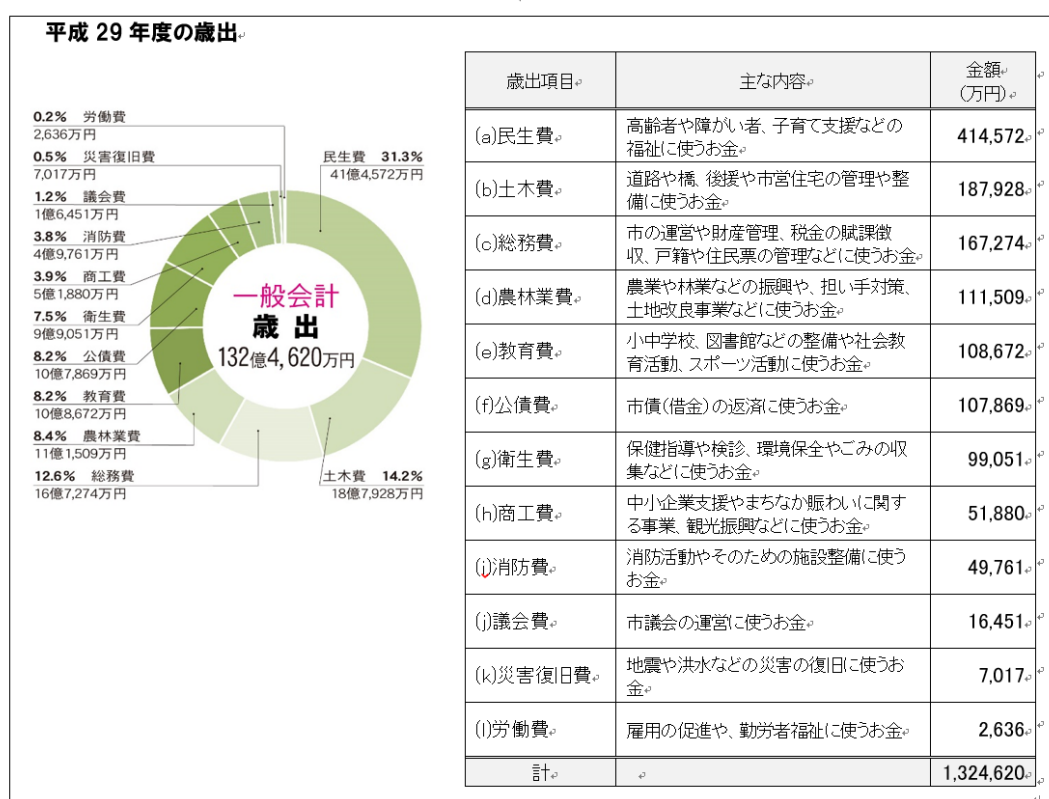


図 3-52. アンケート調査票に掲載した歳出に関する情報

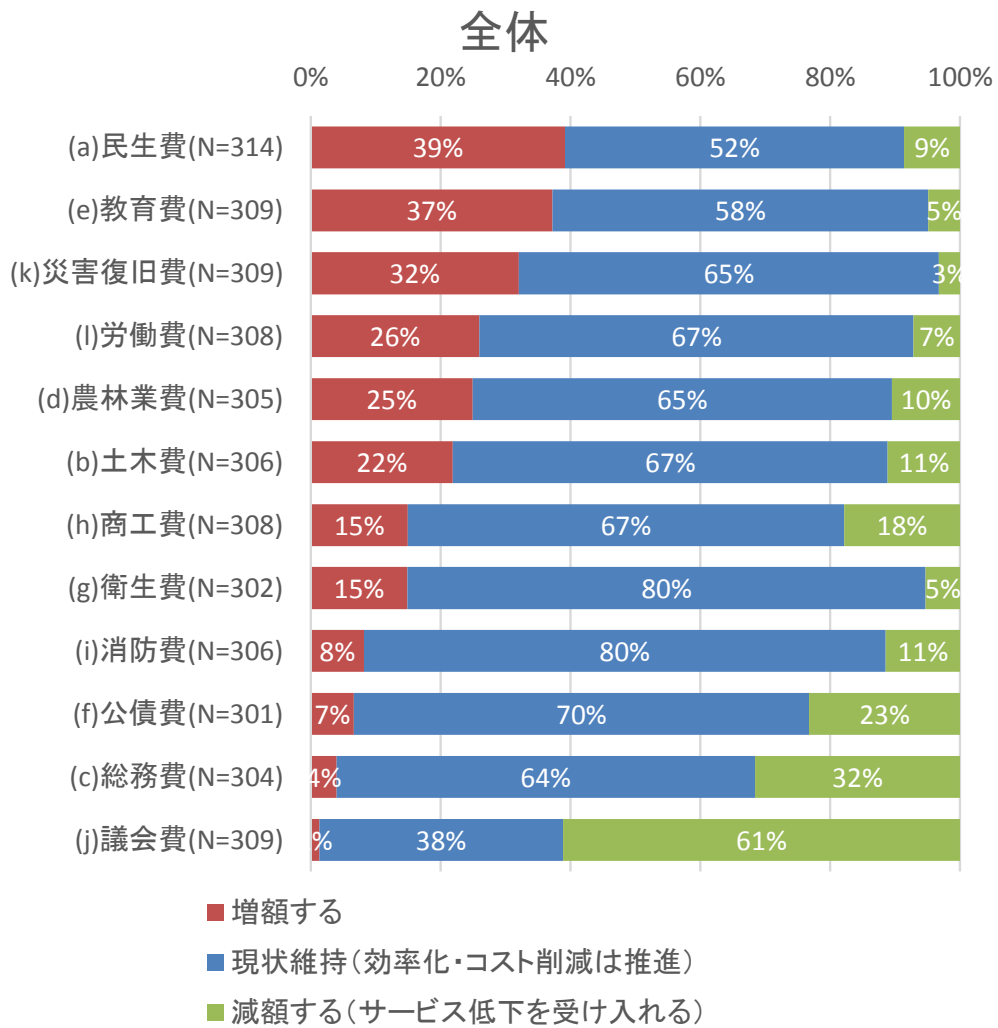


図 3-53. 各分野の予算に対する意向（全回答者）

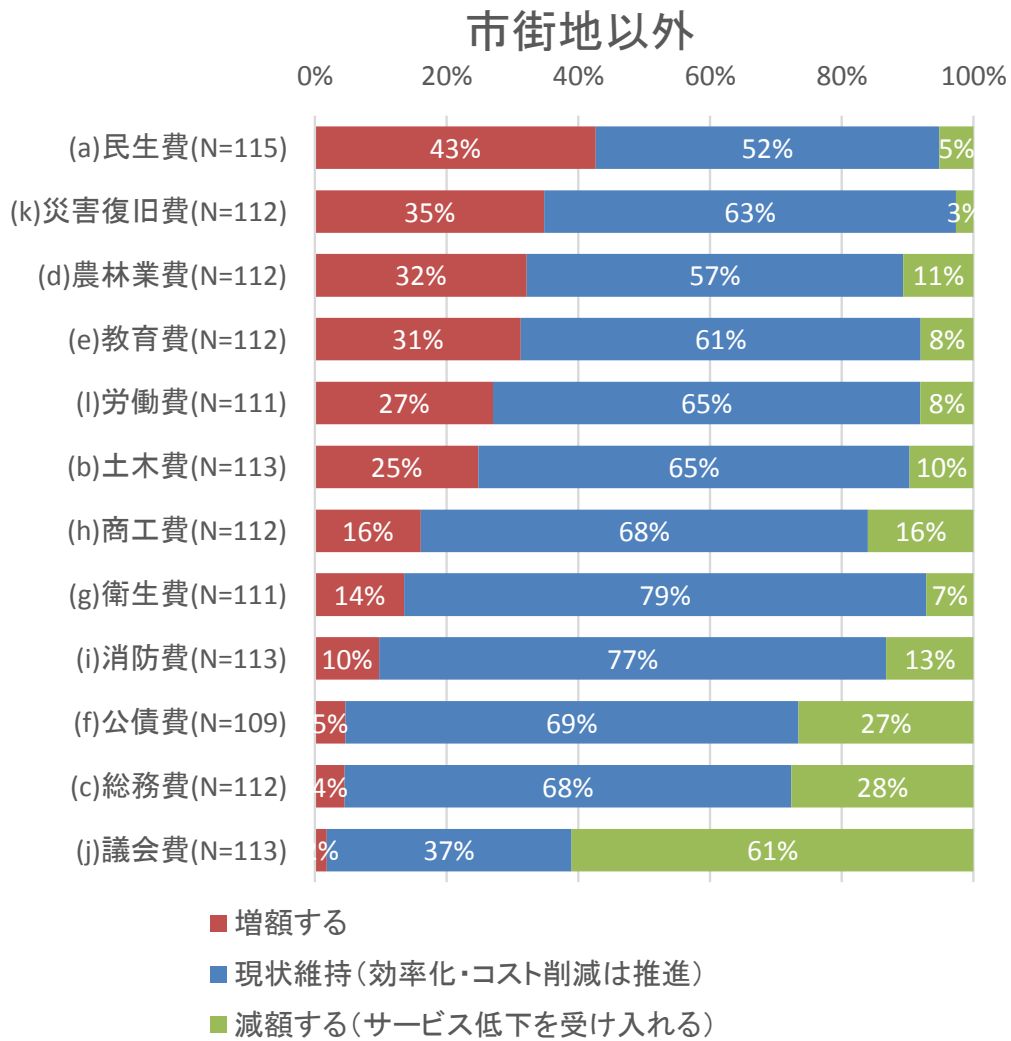


図 3-54. 各分野の予算に対する意向 (市街地以外)

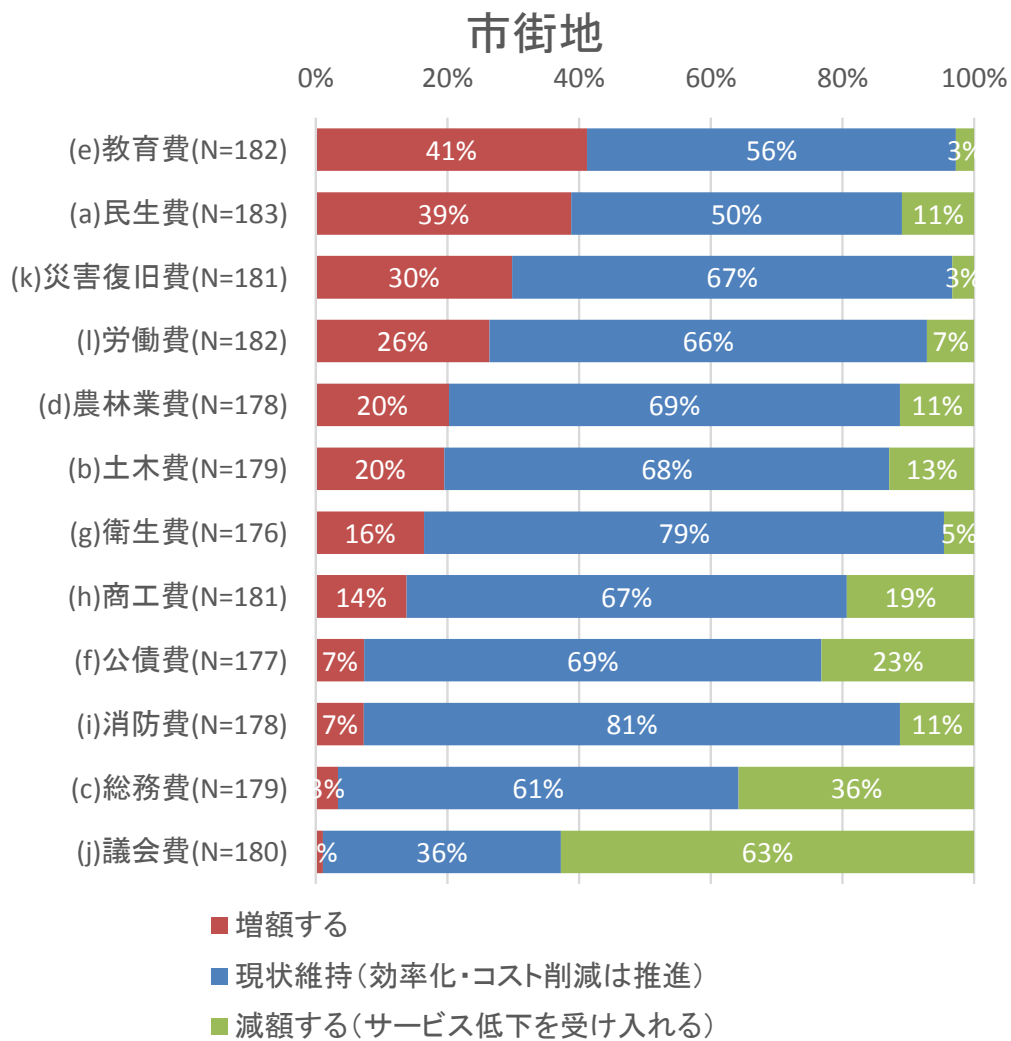


図 3-55. 各分野の予算に対する意向（市街地）

⑨行政サービスの担い手に関する意見

多くの行政サービス（例えば水道、除雪など）は、人口が減少すると一人当たりのコストが上がってしまう傾向にあることに言及した上で、「自助・共助によって住民ができることは地域で担っていく試みが道内の市町村でも始まっています。こうした試みについて、あなたはどのように思いますか。」と聞いた結果、「市民のコスト負担が増えても、これまでどおり市役所によるサービスを受けたい」が 35.7%で最も多かったが、「市民のコスト負担が増えるなら、できる部分は一定の費用をもらいながら自分たちで担ってもよい（30.4%）」、「自分たちで担うことも考えたいが、技術や器具が無いので無理だと思う（32.5%）」も 3 割以上に達していた（図 3-56）。市街地と市街地以外で分けると、市街地以外においては、「市民のコスト負担が増えるなら、できる部分は一定の費用をもらいながら自分たちで担ってもよい」が 37.5%で 1 位となっていた。

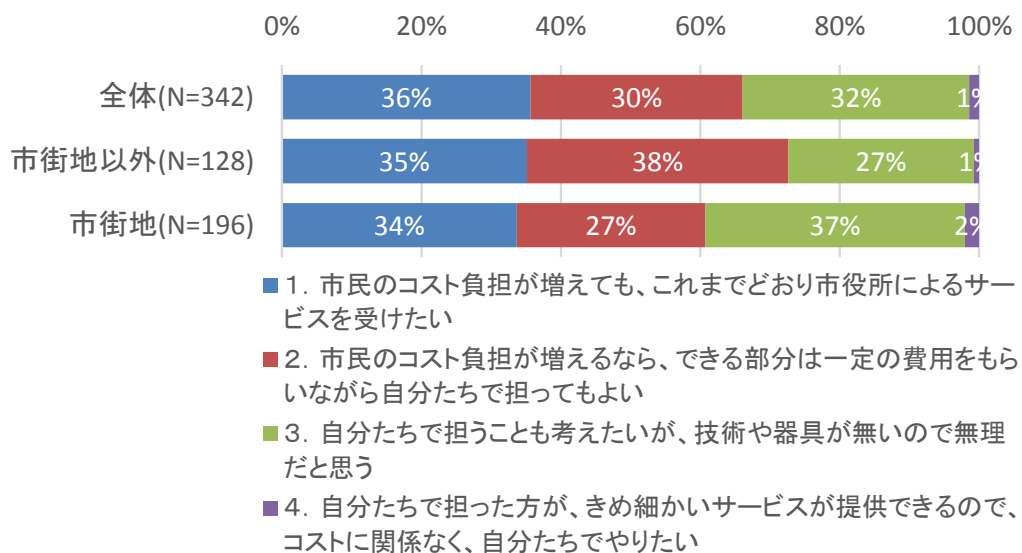


図 3-56. 行政サービスに関する負担意向

⑩ワークショップ等に対する参加意向

ワークショップ等への参加意向を聞いた結果、「ぜひ参加したい」「参加したい」を合わせても、10%以下であった（図 3-57）。市町村と市町村以外で分けても、この結果は同様であった。

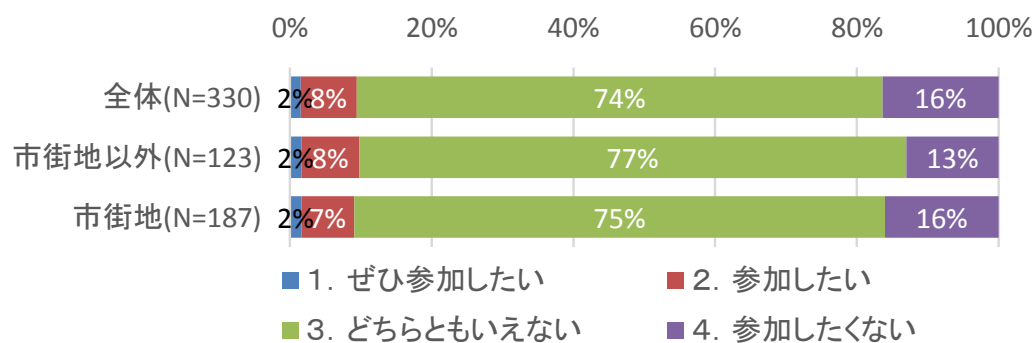


図 3-57. ワークショップ等への参加意向

市民意識調査アンケートのまとめ

- 現状に対する評価は、分野や項目によって平成 21 年度調査時よりも満足度が上がったもの、下がったもの、大きく変わらなかったもの、が確認された。
- 現状に対する評価において、「満足度」と「力を入れてほしい」度合いは単純比例関係ではなく、同じ不満の高い項目の中でも、より「力を入れてほしい」度合いの高い項目とそうでない項目があることがわかった。この違いは、施策のプライオリティを判断する際の参考となる。
- 現状に対する評価は、市街地住民と市街地以外の住民で違いが見られ、「満足度」と「力を入れてほしい」度合いの関係も項目によってまちまちであった。
- 「ごみの分別とリサイクル」は満足度が高く、今後も今まで通りの取り組みが期待されている。「将来に残したい富良野市の良いところ」としても上位に入っている。
- ごみの他に、市民の考える富良野市の良い所は、主に、豊かな自然やおいしい食べ物、田舎ののんびりとした環境といった側面であり、「こうなっていたらいいな」と思う 30 年後の富良野市像においても、仕事や産業、利便性、子育て環境などに期待する回答が多い中で、「ゴミ分別やリサイクル」に加えて「人口は今より減るが、ひとのつながりによりお互い助け合って幸せに暮らしている」や「大都會的な便利さではなく、富良野市独自の良さにより市民が豊かに暮らしている」など独自の豊かさを追求する兆しも見られる。
- 富良野市を周辺市町村および都会と比較評価してもらった結果、イメージや親しい人の存在、自然の豊かさはいずれの比較対象と比べても高く評価されていた。富良野市に対する評価は、雇用機会、利便性、活気の面では都会には劣るものの、周辺市町村と比べると評価は高めであった。